

## 第2回久慈市議会定例会議会議録（第3日）

### 議事日程第3号

平成27年6月17日（水曜日）午前10時00分開議

#### 第1 一般質問

|       |        |
|-------|--------|
| 新政会代表 | 上山 昭彦君 |
| 公明党   | 山口 健一君 |
| 社会民主党 | 梶谷 武由君 |
| 創政会   | 下川原光昭君 |
| 創政会   | 藤島 文男君 |
| 創政会   | 桑田 鉄男君 |
| 創政会   | 下館 祥二君 |

### 会議に付した事件

#### 日程第1 一般質問

#### 出席議員（24名）

|               |               |
|---------------|---------------|
| 1 番 梶 谷 武 由君  | 2 番 下川原 光 昭君  |
| 3 番 藤 島 文 男君  | 4 番 上 山 昭 彦君  |
| 5 番 泉 川 博 明君  | 6 番 木ノ下 祐 治君  |
| 7 番 畑 中 勇 吉君  | 8 番 砂 川 利 男君  |
| 9 番 山 口 健 一君  | 10 番 桑 田 鉄 男君 |
| 11 番 澤 里 富 雄君 | 12 番 中 平 浩 志君 |
| 13 番 小 柳 正 人君 | 14 番 堀 崎 松 男君 |
| 15 番 小 倉 建 一君 | 16 番 小野寺 勝 也君 |
| 17 番 城 内 仲 悦君 | 18 番 下 館 祥 二君 |
| 19 番 中 塚 佳 男君 | 20 番 八重櫻 友 夫君 |
| 21 番 高屋敷 英 則君 | 22 番 宮 澤 憲 司君 |
| 23 番 大 沢 俊 光君 | 24 番 濱 欠 明 宏君 |

#### 欠席議員（なし）

#### 事務局職員出席者

事務局長 澤口 道夫 事務局次長 嵯峨 一郎  
議事係長 皆川 賢司 議 事 係 長 内 紳 悟

#### 説明のための出席者

|                |                         |
|----------------|-------------------------|
| 市 長 遠藤 譲一君     | 副 市 長 中居 正剛君            |
| 総 務 部 長 勝田 恒男君 | 総合政策部長 一田 昭彦君           |
| 総合政策部部長 奈良 透君  | 生活福祉部長 (兼福祉事務所長) 和野 一彦君 |
| 産業経済部長 浅水 泰彦君  | 建設部長 (兼水道事業所長) 中森 誠君    |

|                       |                |
|-----------------------|----------------|
| 会計管理者 鹿糠沢光夫君          | 山形総合支所長 大森 正則君 |
| 教育委員長 成田 不美君          | 教 育 長 加藤 春男君   |
| 教育部長 澤里 充男君           | 選挙管理委員会 大沢 寿一君 |
| 総務課長 (併選管事務局長) 夏井 正悟君 | 財 政 課 長 久慈 清悦君 |
| 政策推進課長 重 浩一郎君         | 教育委員会 大橋 卓君    |
| 教育総務課長                |                |

#### 午前10時00分 開議

○議長（八重櫻友夫君） ただいまから本日の会議を開きます。

この際、昨日の小野寺議員の質問に対する保留中の答弁を求めます。和野生活福祉部長。

○生活福祉部長（和野一彦君） 昨日、答弁を保留しておりました小野寺議員のご質問にお答えをいたします。

質問は、医療費助成に関し、27年8月から小学生の入院部分について対象が拡大されるが、拡大に係る市の財政への影響はどうかというご質問でございましたが、現在、小学生の入院部分については、既に市単独事業として受給者負担額の2分の1を助成しております。県の補助事業が拡大をされまして、市が受給者負担の全額を助成することになりますが、助成に要した費用の2分の1は県から補助金として市に交付されます。現在の制度と比較いたしまして、市の負担はほとんど変わらないというふうに考えております。

なお、平成26年度における小学生の入院は21件、市の助成額は61万4,000円ほどとなっております。

以上でございます。

○議長（八重櫻友夫君） 直ちに本日の議事日程に入ります。

#### 日程第1 一般質問

○議長（八重櫻友夫君） 日程第1、一般質問を行います。

順次質問を許します。新政会代表、上山昭彦君。

〔新政会代表上山昭彦君登壇〕

○4番（上山昭彦君） おはようございます。私は、平成27年6月第2回久慈市議会定例会議に当たり、新

政会を代表して市政を取り巻く諸課題について、市長並びに教育長及び選挙管理委員会委員長に一般質問を行います。

久慈市議会は、議会改革の一環として、通年会期制を導入して、初の定例会議が今任期最後の定例会議となりましたが、会派を代表して一般質問の機会を与えてくださいました新政会の皆様には感謝を申し上げます。

次の任期において、議会活動をなされる皆様には、現在進行形で取り組まれている議会改革をさらによりよい久慈市議会としてつくり上げ、今以上に久慈市民にわかりやすい議会としていただくことを祈念するものであります。

前日に、登壇された質問者と何点かに及び重複する項目がございますが、割愛せず通告に従って順次質問させていただきます。

まず最初に、市有地の利用についてであります。

川崎町地内の市有地に民間会社のレンタカー事業者が進出しました。もともと、久慈市シルバー人材センターが管理し、その駐車場などに隣接する金融機関や市内のタクシー事業者等で利用していましたが、突然の開業に対し大変な戸惑いがあるようです。進出の経緯について、お伺いいたします。

次に、人口減少対策についてであります。

私ども新政会では、この人口減少対策について何度も取り上げてまいりました。人口の将来見通しによると、25年後の2040年に久慈市は2万4,391人へ減少すると国立社会保障・人口問題研究所は推計しております。

当市では、年間死亡者が約500人、生まれる人が約250人となっているようです。相応の対策はとり始めておりますが、まだ十分と言えるものではなく、長期的に考えた施策が必要と考えますが、ご所見をお伺いいたします。

次に、久慈広域の組織連携についてであります。

広域連合などの組織を通じた広域連携において、消防や介護、清掃、火葬等の事業を行っておりますが、既存の事業を含めた具体的な取り組み状況についてお伺いいたします。

次に、地元高校の魅力化についてであります。

久慈工業高校を含めた当地域に三つある高校が地域校としての魅力を今以上に増やすために、久慈としての特色を持ち合わせた事業をさらに手がけ、地域に根

差した文化、伝統を融合した高等学校を築き上げることの大切さと合わせて、キャリア教育の質を高めることで久慈市全体としての地域力をつくり上げることが重要と考えますが、ご所見をお伺いいたします。

次に、震災復興事業の地方負担についてであります。

平成28年度以降の復興事業への地方負担方針について、総合防災公園事業や湊橋架け替え事業等、当市への影響が懸念されます。どのように捉えているか、お伺いいたします。

次に、湾口防波堤の整備についてお伺いいたします。

現在、精力的に整備が促進されている湾口防波堤の工事は、震災後において全額国費で整備されていましたが、来年度以降は各自治体への負担が予想され、整備のおくれが懸念されます。市としては、このことについてどのように捉えているのか、また、どのように考えているのか、ご所見をお伺いいたします。

次に、久慈港の取扱貨物量についてであります。

貨物を取り扱う船舶の入港や出港が年々減少傾向となっているようですが、今後の久慈港での貨物取り扱いの見通しと、その増量へ向けた対策についてお伺いいたします。

次に、一次産業の人材育成についてお伺いいたします。

農業、林業、水産業、どの産業をとりましても、人手不足が懸念されていると同時に、第一次産業へ従事する働き手の高齢化と後継者問題が深刻化していますが、対策についてお伺いいたします。

次に、水産関係補助金返還請求についてお伺いいたします。

国の水産業共同利用施設復旧支援事業を活用し、久慈市冷凍水産加工業協同組合を通じて組合に加盟している事業者へ交付した補助金の返還請求問題で、関連工事費の一部、約1億円が地元の業者に支払われていないとされています。

このような状況が長期間にわたると、関連工事を行った市内の工事事業者への負担が増大し、経営にも影響してくるものと考えますが、ご所見をお伺いいたします。

次に、三陸ジオパークについてであります。

三陸地域の持続的な経済発展を目指す仕組みづくりとして、一昨年、日本ジオパークとして認定された当市を含む三陸ジオパークは約2年が経過し、今後は、

4年に一度の再審査を必要といたします。三陸ジオパーク再認定に向けて、当市ではどのようにかわっていくのかについてお伺いいたします。

次に、総合防災公園整備事業についてお伺いいたします。

先般、事務事業説明会において見直し案が提示されましたが、そのような時期、政府から震災復興事業の地方負担を求めることが示され、さらなる見直しが心配されます。進捗状況についてお伺いいたします。

次に、上長内地区の用水路整備についてお伺いいたします。

小久慈町から長内町の上長内を通り、元木沢町内の久慈川へ流れ出る用水路は、経年劣化による崩壊と近年のは場従事者の減少による維持管理の低下から、多数の損壊箇所が見られ、一部の地区では災害に発展することも考えられる状況にあります。早急な整備計画の策定が必要と思いますが、考えをお伺いいたします。

次の質問項目、総合運動公園整備については、教育長にお伺いいたします。

総合運動公園整備基本構想では、当会派の3月議会での一般質問において、配置する施設の概略、必要規模及び概算工事費などについて試算するとしていましたが、具体的にはどのような構想が盛り込まれているのか、お伺いいたします。

次に、最後の質問項目であります。選挙権年齢の引き下げについてを選挙管理委員会委員長にお伺いいたします。

選挙権年齢が現行の20歳以上から18歳以上への引き下げが導入される見込みであります。その影響をどのように捉えているのか、お伺いいたします。

以上、今任期4年間お世話になりました事務局及び当局の皆様へ感謝を申し上げ、新政会を代表し、登壇しての私からの質問を終わります。

○議長（八重櫻友夫君） 遠藤市長。

〔市長遠藤譲一君登壇〕

○市長（遠藤譲一君） 新政会代表、上山昭彦議員のご質問にお答えをいたします。

最初に、市有地の利用についてお答えをいたします。

川崎町の市有地にレンタカー事業者が立地した経緯についてであります。昨年10月に相手方から当該市有地に営業所を設置したい旨の打診があり、土地を貸し付けておりました公益社団法人久慈市シルバー人材

センターと協議し、異議がないとの回答を得たことから、12月に普通財産借り受けの申し込みを受けたところであります。

当市といたしましては、市有地の有効利用、雇用の創出、観光客の利便性の向上などの観点から、12月に貸し付けを決定し、本年3月に賃貸借契約を締結の上、4月1日から貸し付けを開始したところであります。

次に、人口減少対策についてお答えをいたします。

当市の人口減少を長期的に考えた施策が必要ではないかのご質問についてであります。当市の2040年における将来人口推計を見ますと、国立社会保障・人口問題研究所の推計では2万4,391人、日本創生会議の推計では2万1,691人となっており、それぞれ2010年人口と比較すると33.8%の減、41.2%の減となっております。

これらの推計は、何も対策を講じない場合という前提であり、この推計の数字とならないよう、特に若い世代を地元へ引きつけるために、さらには、女性に地方に住み続けていただくための取り組みを進めていくことが重要と考えております。

当市の総合戦略策定に当たりましては、「安定した雇用創出」「久慈市への人の流れづくり」「結婚・出産・子育ての支援」「安全・安心なふるさとづくり」の四つの基本目標、あわせて当市の特色、地域資源を盛り込んだ内容となるよう、人口減少問題の克服に向けた施策を展開してまいります。

次に、久慈広域の組織連携についてお答えをいたします。

広域連携につきましては、久慈広域連合におきまして介護保険、火葬場、ごみ処理、し尿処理及び消防に関する事務の共同処理を実施しているほか、広域4市町村長で構成する久慈広域行政研究会におきまして、これまで雇用機会の拡大や施設の相互利用、観光行政の広域連携等について横断的な協議を行ってきたところであり、現在は、4市町村長の合意により広域での道の駅の共同設置に係る勉強会を設置し、研究を進めているところであります。

次に、地元高校の魅力化についてお答えをいたします。

議員ご提言のとおり、少子化が進む中、若者の地元定着を図る観点からも、地域の活性化を図るためには、地元の高等学校は、地域のニーズに応えた教育の質的

充実が必要であると考えております。

現在、岩手県教育委員会では、今後の高等学校教育の基本的方向の策定に向け、今後の県立高校に関する地域検討会議などを開催しており、各地域における学科のあり方、質を確保するための市町村との連携・協力などについて、市町村、市町村教育委員会や地域の機関、団体関係者が出席し、検討を進めているところでありますが、市といしましては、これらの機会を捉えて岩手県教育委員会に要望、提言等を行ってまいります。

次に、震災復興事業の地方負担についてお答えをいたします。

当市の影響につきましては、昨日の清風会代表、小柳議員ほかにお答えいたしましたとおり、平成28年度以降5年間で市が行う復興事業においては、現在のところ約6,000万円の負担が新たに発生するものと見込んでおります。

また、国の直轄事業である久慈港湾口防波堤の整備や、県の事業である河川堤防のかさ上げなどの事業のおくれが懸念されることから、岩手県市長会や岩手県沿岸市町村復興期成同盟会などと連携しながら、復興事業におくれが生じないよう全面的な財政支援措置の継続を国に対し強く要望しているところであります。

次に、湾口防波堤の整備についてお答えをいたします。

久慈港湾口防波堤の整備は、市街地の津波浸水範囲を大幅に減少させるものであり、市民の生命と財産を守る上で最も重要な防災基盤であります。また、完成後に創出されます広大な静穏域は、養殖漁業による水産業振興をはじめ、新たな産業振興に大きく寄与するところであります。

現在、全体総延長3,800メートルのうち、1,550メートルのケーソン据えつけが完了しており、据えつけベースの進捗率は40.8%となっております。

湾口防波堤につきましては、震災以降、復興関連予算により整備が加速したところでありますが、現在、国では、集中復興期間後における直轄事業の一部地方負担の考えを示しており、湾口防波堤につきましても、港湾管理者である岩手県の一部負担が生じる状況になっております。

湾口防波堤の完成は、当市が復興を果たす上での前提であり、一日も早い完成がなされますよう、市とい

たしましても、政府や関係省庁等に対して強く要望してまいります。

次に、久慈港の取扱貨物量についてお答えをいたします。

久慈港の取扱貨物量であります。昨年実績で、移出入を合せて約12万1,000トンとなっており、ご指摘のとおり減少傾向にあります。

港湾貨物の取扱量は、背後地の企業活動に大きく左右されますことから、直ちに増加させることは困難であります。ことし5月末までの貨物量は、前年対比139%と堅調に推移しており、また、現在、港湾管理者である岩手県や荷役業者などと連携し、利用可能性のある事業者への働きかけを行っているところであります。

貨物の取扱量は、港湾の利活用状況を示す数値として国・県でも重視しておりますことから、取扱量をふやすため、さらなるポートセールスの強化に積極的に取り組んでまいります。

次に、一次産業の人材育成についてお答えをいたします。

農業につきましては、後継者確保、新規就農者支援策として、いわて地域農業マスタープラン実践支援事業による生産施設整備への助成を行っているほか、新規就農者へは、新規就農者育成確保対策事業による融資返済への助成や、国の支援策であります青年就農給付金の給付により就農初期の負担軽減などを図っております。

また、農業の担い手としての資質向上を目的に、若手農業者で組織された久慈市農村青年クラブの活動を支援しているところであります。

さらに、地域農業を担う力強い経営体質の担い手を育成する観点から、一昨年度1経営体、昨年度1経営体の農事組合法人設立を支援したところであり、これらの法人が新規就農者などの受け皿として機能し、後継者の育成が図られることを期待しているところであります。

林業につきましては、担い手の技術習得を図るため、森林組合が実施する緑の雇用担い手対策事業の研修地として市有林を提供してきたほか、森林での仕事の内容や就業までの流れなど、林業の担い手になるための相談会として、公益財団法人岩手県林業労働対策基金による「森林の仕事ガイダンス」を昨年度市内で開催

するなど、人材の確保に努めているところであります。

水産業につきましては、県において、すぐれた漁業青年と漁村青少年の育成等に指導的役割を果たしている漁業者を岩手県漁業士として認定しているほか、県北広域振興局において、今年度から北の海人養成塾と称し、岩手県立久慈東高等学校の生徒を対象とした漁業体験を行っているところであります。

市におきましても、これまで海づくり少年団の活動に対し支援を行っており、県や関係機関と連携を図りながら、漁業後継者の育成に努めているところであります。

また、今年度において、久慈市漁業協同組合が主体となり、市及び県北広域振興局も参加して、浜の活力再生プランを策定する予定であり、その中で担い手確保のための対策についても検討していくこととしております。

次に、水産関係補助金返還請求についてお答えをいたします。

今回の補助事業につきましては、久慈市冷凍水産加工業協同組合、いわゆる加工協の組合員が施設整備を行ったものでありますが、目的外となる機器の導入を行ったことが判明したことから、本年3月9日、県と市が事業主体である加工協と締結していた補助金交付契約を解除したところであり、このことも一因となり、当該組合員から業者に対する多額の未払金が発生している状況にあるものと認識しております。

このうち、機器の据えつけ工事などを行った地元業者に対しましては、1億円を超える未払い金があると把握しているところであり、当該地元業者はもとより、連鎖的な地元経済への影響が大きな懸念材料となっております。

これまで、加工協に対しましては、県と協調を図りながら、3月23日に10年間の補助金返還の履行延期を決定し、また、6月4日には、岩手県知事に対し、久慈市、洋野町、久慈商工会議所、洋野町商工会の4者の連名により、今般の事案の早期正常化を図るための要望を行ったところであります。

また、当該組合員による業者等に対する未払い金の解消には、いまだ稼働していない今回の施設を含めた施設の正常稼働が必要であると捉えており、そのためには、今後の施設運営計画を作成の上、債権者からご理解をいただく必要があるものと考えております。

できるだけ早期に、この方向に沿った形で今般の事案の収束、正常化が図られるよう、市といたしましても引き続き、県、加工協、関係機関等と連携を図りながら、最大限の努力をしております。

次に、三陸ジオパークについてお答えをいたします。

平成25年9月に三陸ジオパークが日本ジオパークに認定され、三陸ジオパーク推進協議会を中心に、日本ジオパークネットワーク活動の展開や、学術研究等の推進に取り組んでいるところであります。

平成29年度に日本ジオパークの再審査が実施される予定であり、構成市町村の連携、資源の保全・活用等の問題が審査の中心になると伺っております。

当市のかかわり方といたしましては、ジオパーク基本計画及び行動計画策定に係る調査、広域へのジオガイドの派遣、琥珀の保全・活用の学術調査などについて、三陸ジオパーク構成市町村や当地域の民間団体である北三陸大地の恵みジオパーク推進連絡会などとの連携を深め、再認定に向け鋭意取り組んでまいります。

次に、総合防災公園整備事業についてお答えをいたします。

現在の進捗状況であります。公園面積21.7ヘクタールのうち、約19.3ヘクタールについて用地買収の仮契約を締結したところであります。

今後におきましても、引き続き用地確保に努めるとともに、今年中に工事を発注し、平成28年度末には、防災拠点及び一時避難場所としての機能が発揮できるよう、事業進捗に努めてまいります。

最後に、上長内地区の用水路整備についてお答えをいたします。

当該用水路は、かんがい用水路として使用されており、農業用施設の維持管理・整備については、久慈市土地改良区が主体となって行うことが原則であると捉えております。

同改良区によりますと、老朽化が進んでいるため改修の考えがあるものの、単独での改修は財政面から困難な状況であり、県及び市との連携により県営事業の導入を検討し、平成28年度からの事業化を目指したいと考えていると伺っているところであります。

以上で、新政会代表、上山昭彦議員に対する私の答弁を終わります。

○議長（八重櫻友夫君） 加藤教育長。

〔教育長加藤春男君登壇〕

○教育長（加藤春男君） 新政会代表、上山昭彦議員のご質問にお答えをいたします。

総合運動公園整備基本構想の具体的内容についてですが、昨日の政和会代表、濱欠議員にお答えいたしましたとおり、市民意見を反映するためのアンケートや関係団体等との検討会を実施するとともに、自然特性、交通アクセス等を加味しての適地選定を行い、久慈市に見合った総合運動公園の施設整備に向けて基本的な構想をまとめようとするものであります。

以上で、新政会代表、上山昭彦議員に対する私からの答弁を終わります。

○議長（八重櫻友夫君） 大沢選挙管理委員会委員長。

〔選挙管理委員会委員長大沢寿一君登壇〕

○選挙管理委員会委員長（大沢寿一君） 初めて登壇しての答弁の機会を与えていただきました。ありがとうございます。

早速、新政会代表、上山昭彦議員の選挙権年齢の引き下げについてのご質問にお答えいたします。

18歳への選挙権引き下げの影響についてであります。ご質問のあった公職選挙法関連法案につきましては、今通常国会におきまして、6月4日の衆議院本会議で可決され、早ければきょう衆議院本会議で成立する見込みであります。その観点に立って申し述べます。

全国で約240万人の18歳及び19歳の方の投票が可能となり、久慈市におきましても選挙人名簿登録者の約2.4%、約700の方が対象となる見込みであります。

引き下げの影響といたしまして、選挙人名簿システムの改修や新有権者となる方々への選挙啓発が課題であると捉えており、防災行政無線や街頭啓発など、さまざまな手段を活用し、投票を呼びかけるほか、市内小中学校のみならず、新たに高等学校への啓発が必要となるものと考えております。

このように、主権者教育というのが充実していけば、有権者の政治への意識の高揚が図られるんじゃないかなと考えております。

以上で、新政会代表、上山昭彦議員に対する私からの答弁を終わります。

先ほど、「きょう衆議院本会議」と誤って言ったようですが、「参議院本会議」できょう成立する運びとなりました。訂正しておわび申し上げます。ありがとうございました。

○議長（八重櫻友夫君） 再質問、関連質問を許しま

す。4番上山昭彦君。

○4番（上山昭彦君） 丁寧な答弁をいただき、感謝を申し上げます。

それでは、再質問をさせていただきます。

答弁の順番が逆からとなりますけれども、初めは質問項目の12番目、次に10番目、そして、9番目、時間があるようであれば戻りまして4番目の順に質問をさせていただきます。

1項目ずつお聞かせいただきますので、ご答弁をよろしく願いいたします。

また、久慈市議会では、議会基本条例でICTを活用するというようにしております。これまでパソコン等の議場への持ち込みが許されておりましたが、今会議からプロジェクターを使用するのライドも利用できるようになりました。説明がわかりやすいように、皆様に写真をご提示いただきながら再質問ができる環境が整いましたので、私も利用させていただきながら説明させていただきたいと思っております。使用に際し、議長の許可を求めます。

○議長（八重櫻友夫君） ただいま上山議員から議場内でのスクリーンを使いたい旨の発言がありましたので、これを許可いたします。

スクリーン等の準備のために少しお待ちいただきたいと思っております。

4番上山昭彦君。

○4番（上山昭彦君） ありがとうございます。それでは、再開させていただきます。

まず初めに、質問項目の12番目の上長内地区の用水路整備についてお聞きいたします。

先ほどのご答弁では、平成28年から事業化をしたい考えであるということでした。ここで取り上げさせていただいております用水路は、これまで長内地区土地区画整理事業廃止後の雨水排水対策の観点から一般質問で何度も取り上げさせていただいておりますけれども、その間にも水路の擁壁の崩壊が続いている箇所もあることから、さらに今回取り上げさせていただきました。

初めに、今、ご覧いただいております写真でございますが、この写真のように、ここ用水路であります。こちらが市道になります。こちらのほうに民家が立ち並んでおります。

これは、上長内から下長内へ通る上長内下長内線の

並びの通りなんですけれども、特にご覧いただきたいのが、ここからの写真でございます。

この用水路のこの部分、もう写真で見ておわかりになると思いますけれど、ここが崩落してしまっていて、大変危険な状態になっております。

この部分はもう完全に崩落しておりまして、もう土だけ、擁壁がほとんど残っていない状態、そういう部分にもなっております。

崩落対策として、現状で住民は自分たちでできることっていうのは、こういうふうにつかえ棒、ここだけじゃなくて、この下側、下流側にもずっとなってるんですけども、そういうふうにして、何とか崩落が起きにくい環境をつくっておりますが、根本的な解決策とはなっておりません。

用水路の擁壁の、ここは水が流れておりますけれども、このように崩れていなくても擁壁の下側、水が流れているところと、その擁壁の下側のほう、こういうふうにあけがいたり、浸食されている箇所もたくさんあります。

このところも同じように浸食されている部分です。そういうところが多くあります。

担当部署の皆様、ご覧になられている方もあると思いますけれども、三、四カ月前よりさらに一、二枚ほどコンクリート壁が倒れ続けている現状を早期に解決していただくことが必要と考えておりますけれども、この現況をご覧いただいた上で、また、取り組み方をお聞かせいただきたいと思っております。

○議長（八重櫻友夫君） 浅水産業経済部長。

○産業経済部長（浅水泰彦君） ただいまの上長内地区の用水路整備についてでございます。

ただいま写真でも見せていただきましたし、現場についても確認をさせていただいております。ご指摘のとおり非常に老朽化のほうが進んでおりまして、水等が大量に出た場合には、一気に崩落しかねないというふうな状況であるということも認識しております。

特に、周囲が宅地化が進んで、舗装面が増えているというふうなことで、流れ込む雨水も量が増しているというふうな状況にもなっているというふうな考えておりますので、先ほど市長からご答弁申し上げましたとおり、土地改良区のほうで来年度、何とか事業化を目指したいということでございますので、それに向けて一緒に取り組んでまいりたいというふうな考えてお

ります。

以上でございます。

○議長（八重櫻友夫君） 4番上山昭彦君。

○4番（上山昭彦君） 大変、予算が厳しい中、多くの事業を進めなければならないこともわかります。土地改良区の管轄であるということも十分理解はできますけれども、ほ場に水を現在流して田んぼをつくっている現状です。今すぐに整備していただきたいとは申せませんが、これからの梅雨時期、台風時期、昨日は紫波町のほうでも相当雨が降って浸水した箇所もあるようです。

そういう時期が来て、降雨が多くなった場合、擁壁がない箇所から流水が多くなると土だけの部分がありますので、その土砂の浸食が進み、災害へと発展することが懸念されております。これらのことを念頭に置きながら整備計画を進めていながら、来年度からということですが、来年度から考えるということなら、来年度に本当にその、整備を進めていただきたいと思っております。

次に、質問項目の10番目のほうに移ります。三陸ジオパークについてでございます。

こちら答弁では、民間と連携して取り組んでいくというお話をいただきました。大変ありがたいことだと思います。三陸ジオパークについては、東日本大震災以前に日本の地質百選として認定されておりました久慈層群というものがありますが、地質的な宝庫でありますし、久慈地域を含む三陸沿岸が三陸ジオパークとして認定していただくことによりまして、当地域の観光とか、それに付随する多くの産業が持続的に成長するということを願ひまして、私も関連市民団体の一員として、個人的にも取り組みましたし、この議場においても久慈市として積極的に取り組んでいただきたいということを訴えてきた経緯もあります。

過日、三陸ジオパーク推進協議会の上席ジオパーク推進員の杉本伸一氏の講演を聞く機会がありました。その中で、昨年12月審査では、四つの再審査があったようでございますが、そのうち二つが日本ジオパークの再認定にならなかったというお話もされておりました。結局は、2年後の再審査という条件がついて再認定にはなったようでありまして、今後、厳しい条件をクリアしながら、せっかく苦労して認定をとり、日本ジオパークとして観光面などの交流人口を呼び込

める条件がそろったとしても、そこに甘んじて、油断してストップしていれば、次の認定というのを望むことができない状態になります。

三陸ジオパークの構成団体として久慈市がもっと主導的な役割を持って三陸ジオパークを牽引していただきたいものと思いますが、その辺のご所見をお伺いたします。

○議長（八重櫻友夫君） 浅水産業経済部長。

○産業経済部長（浅水泰彦君） 三陸ジオパークの2年後の再認定に向けての市としての取り組み方というふうなことでございました。

議員からもご指摘がありました、ご指摘といたしますか、ご披露ございました杉本先生の講演、私も一緒に聞かせていただいたわけなんです、その中でほかのジオパークの状況等についてもお話をいただいた中で、他のジオパークでは、官民という部分のところで、その民の部分が非常に大きなウエートを占めている、役割も果たしているというふうなことがございまして、当ジオパークについては、その産学官の中で官の割合が非常に高いというふうなご指摘があったというふうに記憶しております。

そういった中で、官のみならず、やはりその学、大学とか研究とか、そういった部分をもっと深めていく。それから、まずは、その民という部分の当地域には北三陸大地の恵み・ジオパーク推進連絡会という立派な組織がございます。ぜひこういった組織の皆様方をこの協議会のほうにしっかりと取り込んで、そして、その民間の活力という部分を発信していくことが重要なのかなというふうに考えております。

ぜひそういった動きをつくっていきなというふうに考えておまして、この大きな資源でありますジオパークというものを最大限に活用できるように、今後とも継続して取り組んでまいりたいと考えております。

以上でございます。

○議長（八重櫻友夫君） 4番上山昭彦君。

○4番（上山昭彦君） 部長とも一緒にこの講演をお聞きいたしまして、今のようなお話の内容も先生がお話されておりました。

先ほど構成団体として久慈市ということで申し上げましたけれども、現在日本全国で36の地域が日本ジオパークとして認められております。構成団体を先ほど

の部長の話のように、講演から聞かせていただきますと、その産学官という三つで分けした場合、先ほど部長おっしゃってましたけれども、三陸ジオパークというのは、他のジオパークに比べまして官の割合が非常に多く、7割ほどが官公庁というふうなお話だったのでないかと私も記憶しておりました。

産学官がうまく連携して、ジオパークを応援するには、そのバランスが均等にうまくなっていればいいというお話もされておったようです。三陸地域のこの事情も考慮をしまして、今後、産学官のバランスをとっていければよいものと考えますけれども、民間事業者や学校等、教育機関を三陸ジオパークの構成団体として迎えるために、ジオパーク推進連絡会が開催している小学校、中学校への出前講座というのがありますけれども、それらをいろんな教育団体等へも広げていくことが必要と思いますが、その辺の考えはいかがでしょうか。

○議長（八重櫻友夫君） 浅水産業経済部長。

○産業経済部長（浅水泰彦君） ただいまこのジオパークにかかわって、その学の部分、学校等との連携ということでございました。

いずれこれは行政が直接ということにはならないわけでございますので、先ほどもお話し上げましたジオパーク推進連絡会の方々のご協力をいただきながら、ぜひこの学校との連携という部分、地元の小中学校はもとより高校等も含めたところでのもの、あるいは、当地域にはないわけですが、大学等との連携についても深めてまいりたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（八重櫻友夫君） 4番上山昭彦君。

○4番（上山昭彦君） 産学官の学との連携が大事だという先生のお話もありました。その辺を見据えながら、教育団体、学校等の連携をさらに進めていくように引っ張って行って、久慈市のほうで引っ張っていただければ大変、ジオパークがうまく回っていくのかなとも思います。

それでは、次に、質問項目の9番目です。水産関係補助金返還請求についてであります。

これは、なかなか難しい問題になっているようでございます。水産関係補助金返還請求問題が議会へ説明されましたのは、3月の議会終了日のことだったでしょうか。それから、3カ月が経過しようとしています。



この間、先ほど、市長もお話がありましたけれども、県を訪れ、要望書を渡すなど解決策を見出すご努力をなされていることが報道されております。

昨日の新聞、朝刊でしたでしょうか。県への補助金返還が3年間延長されたということで報道がありました。一定期間あれば、償還可能性が高まるという判断のようでした。久慈市からの補助金も同様に、これは3年間延長されていると考えてよろしいでしょうか。お伺いいたします。

○議長（八重櫻友夫君） 浅水産業経済部長。

○産業経済部長（浅水泰彦君） 水産業関係の補助金返還の関係でございます。

昨日の新聞報道の中で、報道された内容でございますが、これは事業が2カ年度にまたがっておりまして、23年度事業、24年度事業ということになっておりまして、23年度事業につきましては、国・県のみ補助金でございます。それから、24年度事業には、市の補助金も含まれております。3月にご報告申し上げた内容につきましては、24年度事業分ということで、これについては市の補助金も含まれておりまして、10年間の補助金の延期というふうなことで決定をさせていただいております。

昨日報道されました1,600万某の補助金につきましては、23年度事業分ということで、市の補助金は含まれていないものでございます。

以上でございます。

○議長（八重櫻友夫君） 4番上山昭彦君。

○4番（上山昭彦君） その辺のことは23年度はなかったということで久慈の分はないというふうになりました。

多分私だけでなく、皆様も同じ思いであると思っておりますけれども、地域の事業者者に合計で約1億円という巨額のお金が不払いが何年も続いた場合、体力的に弱い小規模事業者では事業の継続が困難になってくるものと想定されます。補助金を交付する県に工事を進めるように言われて工事を進めてきたという事業者が突然の補助金交付契約の解除を受けまして、関連工事費を受け取れなくなるということは、工事を進捗させるように進めてきた県にも大きな不備があるようにも思えますけれども、市として、県が不適切な判断をしたというふうには言えないでしょうけれども、補助事業が完成する直前まで工事を進めたことを市としてはど

ようにお考えになってるのでしょうか。

○議長（八重櫻友夫君） 浅水産業経済部長。

○産業経済部長（浅水泰彦君） この補助金返還にかかわって、県がその決定といいますか、判断したことに関してのということでございますが、今回の事案が、やはり報告できたのは3月9日という日だったわけですが、それまでにはいろいろとやはりその取り扱いをどうするかという部分で、県と市の中で検討協議がなされてきたわけでございます。その中で結果的には、事業が完了する直前ぐらいのところ補助事業中止という判断に至ったわけでございますが、これは、やはり正しくない事業をそのまま継続するということについては、それは、後々の影響がさらに大きいものになるというふうなことで、やむなくそういった判断に至ったものだというふうにご覧になっておいて、これは、とり得る、その中では仕方のないといえますか、判断だったというふうにご覧になっておいて。

以上でございます。

○議長（八重櫻友夫君） 4番上山昭彦君。

○4番（上山昭彦君） なかなか県のほうも苦渋の決断になったものだと思いますけれども、細かいところまで時間もあれなんで、その辺はわかりました。

この件に関しましては、例えば、その事業主が倒産したとして、従業員に賃金が支払われない状況がある場合、これは、未払い賃金立てかえ制度というのがあるんですが、その8割は保証されるということで考えてよろしいわけでしょうか。例えば、そういうふうになったということですが。

○議長（八重櫻友夫君） 浅水産業経済部長。

○産業経済部長（浅水泰彦君） ただいま未払い賃金の支払い制度というお話ございました。ちょっとこの制度については、私ちょっと詳細把握しておりませんでしたので、資料を取り寄せてご答弁させていただきますが、いずれ現状のところそういった事態に至らないようにということで、いろいろ事業者等からの聞き取り等は行っているところでございます。

以上でございます。

○議長（八重櫻友夫君） 4番上山昭彦君。

○4番（上山昭彦君） その辺は調べたら教えていただければと思います。

それでは、次に、4番目の地元高校の魅力化ということでお伺いさせていただきます。

ここで私が、ここでお話ししたいことはといいますと、社会人に高校生近いわけですけれども、その高校生がいる高校の魅力を高めることによりまして、高校教育の質というのも高まると思います。地元の文化とか伝統を深く感じとっていただいて、久慈市への地元愛をいっぱい持っていただく。それによって進学や就職によって、一旦は市外へ出て行かれる皆さんが多いんでしょうけれども、その皆さんがIターン、Uターン、Kターンということで久慈に戻ってきてくれる心を育てていきたいとの思いからの質問でございました。

少子化によりまして、高等学校も統合されることが考えられますけれども、子育て世代が、例えば、Uターンで戻られても、高校の教育の質が例えば低かったとか、魅力が薄い高校だというふうに判断して、転出、また来て転出していくという事例も報告されているようでございます。

久慈地域には、その魅力を大きく育てる高校があると思っています。例えば、数年のうちに盛岡一高にまさるとも劣らない進学校として久慈校が学力を高めるとか、地域の6次産業、こちらの開発の原動力となるような久慈東高校を育てるとか、また、先ほどジオパークをお話しましたが、ジオパークに特化したような地質遺産とか、例えば、地球規模の観測体制というものが整ったような久慈工業高校、そういうことになれば、他地域からも入学者がまたふえてくるということも考えられますが、その辺のご所見はいかがでしょうか。

○議長（八重櫻友夫君） 中居副市長。

○副市長（中居正剛君） 今、議員さんから高校の魅力、質を高めるんだと。そして、地元愛を持つ子供たちを育てるべきだというお話をいただきました。そのとおりだと思っております。

この前、5月28日でしたが、今後の県立高校に関する地域検討会議が洋野町で開催されまして、久慈ブロックの会議がございまして、私も出席いたしまして、市としての県立高校に関する考え方ということでお話をさせていただきました。

その中で一部でございますが、この地域については、社会的なインフラが整ってる県央から遠い地域に位置しているんだと。そういった中で高等学校の教育にかかる質、それから量が担保されることが重要なんだということもお話してまいりました。

それから、今後の地域づくりを考える上でも、この若者が流出することなく、地元で仕事をして、結婚をし、子供を育てて、地域を愛して、地域を盛り上げていただくと。そのような環境づくりのためにも、この高等学校がぜひ必要なんだということも強く訴えてまいりました。

また、この地域にとりまして、人材の確保も重要なんだと。特にこの医師をはじめとする医療関係者等の確保も必要だということも訴えてまいりました。

それから、地元への就職を希望する、また、希望するような教育が大切ではないのかということも訴えてまいりまして、例えば、この実業高校と誘致企業等を含む地元企業との連携を図っていただいて、子供と雇用主のニーズを分析し、この地域に根差した学科の創設などについても検討いただくようにと、それらのようなこともお願いをしてきたところでございまして、ただいま議員からご提言のありました内容等について、今後ともあと2回ほどこの会議が開催されますので、それらを含めまして、今後も強く県に訴えてまいりたいと思っております。

以上です。

○議長（八重櫻友夫君） 4番上山昭彦君。

○4番（上山昭彦君） 県のほうへは強くその辺のことも訴えていただきたいと思います。

そこで、キャリア教育のことでお聞かせいただきたいと思っております。

今、高校のことでお聞かせいただきましたけれども、市のほうの事業として復興を担う次世代の人材育成事業というのが産業経済部のほうであると思っておりますけれども、やませデザイン会議さんに委託して行っておると思いますが、これは当地域の高卒者が県外へ就職するということが多くことから、中学校のキャリア教育をコーディネートするということで始めた事業であると思っております。大変重要な事業であると思っておりますが、中学校からの意見等、何か出ているようであれば、お聞かせいただきたいと思っておりますが、いかがでしょうか。

○議長（八重櫻友夫君） 浅水産業経済部長。

○産業経済部長（浅水泰彦君） ただいま高校でのキャリア教育というふうなことでのご質問でございました。そういった人材育成とか、キャリア教育の部分につきましては、当地域におきましては、振興局の経営

企画部のほうが主体となって今いろいろな事業を展開しているというふうには伺っておりますが、その詳しい内容につきましては、ちょっと詳細を把握しておりませんでしたので、ご容赦いただきたいと思っております。

それから、先ほど答弁を保留させていただきまして未払い賃金立てかえ制度につきましてですが、これは議員からご指摘がございましたとおり、企業倒産により賃金が支払えないまま退職した労働者に対しての未払い金の一部を立て替え払いする制度ということになっておりますが、これを取り扱っている所管が労働基準監督署、それから、独立行政法人労働者健康福祉機構ということでございまして、こちらの判断によるということでございますので、市といたしまして、これが適用になるかどうかという判断はできないところでございます。

以上でございます。

○議長（八重櫻友夫君） 4番上山昭彦君。

○4番（上山昭彦君） ありがとうございます。先ほどの次代を担う次世代の人材育成事業ですが、単年度事業となると思いますけれども、中学校のほうでは、1年ごとではなく、来年度も続くようには聞いておりますけれども、三年、四年と続けていけば、もっともって地元に着定する子供たちが増えるのじゃないかという思いがあるようです。その辺のことも学校から聞きながら進めていただければよろしいかと思っております。

以上です。

○議長（八重櫻友夫君） 5番泉川博明君。

○5番（泉川博明君） 上山議員の一般質問に関連いたしまして、何点が質問させていただきます。

まず第1に、湾口防波堤の整備についてでございますが、昨日の一般質問でも触れられておりましたので、自治体負担について若干角度を変えながら伺います。

皆さん、ご承知のとおり、久慈地域はもちろんのこと、三陸沿岸地域は津波被害を受けやすい地形条件と言われております。当市では、毎年6月15日に津波避難訓練を実施しておりますが、明治29年の大津波から幾度となく甚大な津波被害を受けてきた歴史があり、近年では平成23年3月11日のあの忘れられない東日本大震災の大津波で、未曾有の大災害をこうむった歴史があり、一日でも早い恒久的な津波対策をすべきと考えます。

東日本大震災後、政府は、県負担分に震災復興特別交付税を企て、全額国費で整備されておりましたが、来年度から自治体負担を求める政府方針が打ち出され、この方針には港湾整備事業も負担対象に上げられていることから、完成の遅延が懸念されております。

昨日の答弁でも言われておりましたが、陸測の防波堤の高さは、湾口防波堤の完成を前提とし設計されており、このようなことから、完成年度がおくれますと、久慈市の復興のまちづくりが途上の住民にとりましては、いつ来るかわからない津波の心配が脳裏から離れられないと思っております。

過日におかれましても、大きな地震があり、津波注意報が発令となり、一時またかと思う場面もございました。

仄聞いたしますところによりますと、あしたにでも上京し、政府に対しまして自治体負担なしの陳情を行うようですが、市長はご答弁でも申されておりましたが、完成年度の前倒しも視野に入れ要望していくことでございました。

何と言いましても、久慈市の中心部は恒久的な津波対策が喫緊の課題でありますことから、これからも市、県、国、関係機関と真剣に取り組み、完成年度の前倒しを前提とした自治体負担なしの要望を粘り強く実施していくべきと考えますが、遠藤市長の久慈市の生命と財産を守るべき立場から市民も期待していると思っておりますので、決意のほどがございまして、お聞かせください。

○議長（八重櫻友夫君） 遠藤市長。

○市長（遠藤譲一君） 私といたしましても、久慈市民の皆様の命を守ると、これが久慈市政を行う上での最重要課題と思っております。

湾口防波堤の完成時期は、従来から2040年ということでございますので、現時点から考えても14年後というふうになっておりますが、やはり4年3カ月前のあの震災を経験した私たちからすると、これは本当に14年という時間、待ってられないというふうに思っています。

あした上京して政府関係、あとは関係省庁、要望活動を行ってまいります。竹下復興大臣にも4月に久慈港の現状をその目で見させていただいたこともありますので、さらに強く訴えていきたいと思っております。

今、ここで事業進捗が出来るということになりま

すと、やはり久慈市民の不安が、その間ずっと続いていくと。議員お話のとおり、大きな地震が頻繁に起きている状況でもありますので、これは本当に誠心誠意、久慈市民の気持ちを伝えてまいりたいというふうに思っております。

○議長（八重櫻友夫君） 5番泉川博明君。

○5番（泉川博明君） 遠藤市長には、これからも一生懸命頑張っていただきたいと思っております。

次に、2点目といたしまして、久慈港の取扱貨物量についてですが、この件につきましては2点お伺いいたします。

1点目といたしましては、魚市場のにぎわいももちろんのこと大事なのですが、久慈港諏訪下埠頭における貨物の揚げ下ろしのにぎわいも当市にとりましては重要であり、真剣に取り組んでいくべきと考えます。

先ほども説明しておりましたが、震災前に比べましても減少傾向が続いているようでございます。岩手県北唯一の重要港湾であり、北三陸における物流の拠点として担っているわけでございますので、もう少し活気があってもよいのではないかと思いますので、考えをお伺いいたします。

2点目といたしましては、お隣の野田村で来年の4月に稼働予定の木質バイオマス発電の燃料の件でございますけれども、前回のご答弁では、燃料を搭載した貨物船が久慈港に入港し、陸揚げ後、現地に運ぶかもというご答弁がございましたが、その後の現状はどのようになっているのか、お伺いをいたします。

○議長（八重櫻友夫君） 遠藤市長。

○市長（遠藤謙一君） 第1問、最初のほう市政についてお答えをいたします。

岩手県の沿岸、重要港湾が4港ございますが、私も全国の大会等行きまして、貨物取扱量の説明、数値が出ますが、久慈を除いた3港分が出てまいります。3港と比べましても久慈市の取扱量は、数値的にもかなり開きがございますので、やっぱりこの状況は何ともしても打開しなければいけないと思っております。

取り扱いの貨物量が増えているところは、ガントリークレーンですか、そういったものの整備もやはり国、県が積極的に進めると。取扱量が少ないところは、やはりそういったものが後に回っていくというふうな悪循環にもございますので、何とかこれを改善していかなくてはならないと思っております。

先ほどお話し上げました、ことし5月現在の前年比での取扱量増えております。明るい話も二、三、私も聞いておりますので、さらにそれを本当に力を入れて取り組んでいかなければいけないんですが、やはり企業活動にかかっております。あと数年で三陸の無料の高速道路がつながるといことも明るい材料になり得るだろうというふうには思っておりますが、これにつきましても、やっぱり待ちではなくて、こちらから攻めて、前向きにどンドン営業活動を行うというふうなことを通じて、この取扱量の増、他の3港にやはり近づくような、そういうふうな数値目標をつかっていきたいなというふうには思っております。

完成予定平成40年度です。あと14年後です。失礼いたしました。

○議長（八重櫻友夫君） 奈良港湾エネルギー推進担当部長。

○港湾エネルギー推進担当部長（奈良透君） 諏訪下地区のにぎわいということで、議員さんのほうから質問がありましたけれども、先ほど市長からもご答弁させていただきましたけれども、現在、ことしは貨物が堅調に推移しているということで、先ほどもご答弁させていただきましたが、増加の要因として既存企業であります北日本造船の船舶ブロック、それから、あと原木、それから、珪石につきましても、最近では随分減少傾向にあったんですが、企業努力もありまして新たな販路開拓がなされておまして、ことしも、去年から見れば大幅に増加するのかなということで、ことしの貨物量は昨年を上回るものと見込んでいるところでございます。

それから、2点目の野田のバイオマスの件ですが、県のほうで、その荷役というか、バイオマスの補助燃料、PKSってヤシ殻なんですけど、野積み場を舗装することで8月から整備するというので予算を組んで施工するように整備するというので話を聞いております。

それで、そのバイオマス発電に使う補助燃料なんですけど、企業から今聞いている段階では、3月ぐらいには来年第一線が入るような話も聞いているところでございます。

以上です。

○議長（八重櫻友夫君） 5番泉川博明君。

○5番（泉川博明君） 力強いご答弁をありがとうございます。

ざいました。やはり港が活気がないと寂しいものでございます。私、たまに、たまたま大尻方面、家に帰っていますんだけど、いつも港に船が入ってるのかと、いつも気にかかります。やはりそういうことが増えることによって、久慈にもお金が入ります。その辺を考えながら、とにかく頑張っていたきたいと思えます。

これで質問を終わります。

**○議長（八重櫻友夫君）** 先ほど上山議員の質問に対して、当局のほうから訂正の発言がございますので、それを許します。浅水産業経済部長。

**○産業経済部長（浅水泰彦君）** 先ほどの上山議員からのご質問の中での人材育成にかかわる部分でございます。私ちょっと質問の趣旨を取り違えまして、高校に限った話でお答えしてしまいましたが、中学校の部分、これまでも各学校で職場体験等実施してきているわけなんですけど、これを何とかもう少し充実したものにできないかということで、今年度から取り組みを始めておりまして、その中で学校等を今訪問している状況ということでございます。

市内8校中、7校の訪問については、既に終わっております。実際に、来週は長内中学校で事前学習を実施予定というふうなことで、いずれ何とかこの地域の職場を少しでも理解を深めていただきながら、将来的に地元に残って、地元のために活躍していただく人材を育てていきたいというふうなことでの取り組みを進めてまいりたいというふうなことで考えております。

以上でございます。

**○議長（八重櫻友夫君）** 6番木ノ下祐治君。

**○6番（木ノ下祐治君）** それでは、上山議員の質問に関連いたしまして何点か質問させていただきます。

それでは、人口減少対策について。

市長、これは12月でしたかな、12月の議会。市の職員の独身者についてお尋ねしたわけですが、ただ尋ねただけでは全然何の意味もないということで、ちょっと私なりに考えてみました。

独身者の皆さんをいわゆる全員集めて、そして、1回職員の皆さんがおそらく職員同士でも誰が独身で誰が既婚者なのか、おそらくほとんどの方はご存じないと思えますので、全庁になるとですよ。集めて、やはりああの方が独身なんだという、いわゆる情報みたいに顔合わせをすることがあってもいいのではないか

など思ってるんですよ。

というのは、自分に例えれば、私、先妻を亡くして再婚をさせていただきましたが、52歳で再婚しております。結構、年のいってる職員もございまして、私の再婚の年齢から見れば十二分にチャンスがあると。何も臆することはないと。ただ、その出会いのチャンスがないのではないかなと。なかなかそういう情報といえますか、そういうチャンスがなければ、これは誰もなかなか難しいわけでございますので、ひとつ、市長、その辺からまずご答弁をいただければと思います。

**○議長（八重櫻友夫君）** 中居副市長。

**○副市長（中居正剛君）** ただいま職員についても、出会いがないんだというお話でございます。確かにそのとおりだと思います。私も若いときには、いろんな方々から、いやどうだと、お見合いしてみないかというようなお話もいただいたことも、若いときでございます。今、現在、考えるに、なかなかそういう仲立ちといえますか、出会いの場をセッティングといえますか、そういう方々もいっしょにならなくなってきているのかなという感じで見ております。

そうした中で、今年度、市でもってそういう出会いの場をセットしていただけるボランティアの方、そういう方に何とか出てきてほしいということで、市の広報にも募集をかけております。

そうした中で、市の職員のみならず、そういう出会いの場、それから、県でも宮古のほうに、そういう登録制の組織をつくるということをお聞きしております。そして、この久慈市にも出張しているいろんな出会いの場のセッティング等もしていただけるということでございますので、県とも一緒になって、そういう部分についてはどういことができるのか、検討してまいりたいと思えます。

以上です。

**○議長（八重櫻友夫君）** 6番木ノ下祐治君。

**○6番（木ノ下祐治君）** 副市長、そういう手ぬるい話ではなく、現実問題、私どもは結婚していますから他人事のように、ある反面では感じるわけですが、現実問題考えるならば、笑い事では済まされなんでしょうね、本当に。人口減少の推移の表を私はここに持ってきてるんですが、これを今本当は先にやろうかと思ったんですが、そういうことを考えたならば、やはり

まず自分のお膝元の職員、そういう出会いの場のチャンスをまずつくってあげたらどうです。ひとつ答弁をお願いいたします。

○議長（八重櫻友夫君） 遠藤市長。

○市長（遠藤譲一君） 木ノ下議員おっしゃるとおり、笑い事ではないのであります。亡くなる方が、生まれてくる子供たちの倍もいるという状況の中で、あと社会減が出てまいりますので、このままの状況では人がどんどん減る、若い人たちが減る、子供たちがさらに減るということでございます。

久慈市も昨年度、職員、独身の職員と保育所の保母さん、そちらも出会いの機会がないということだったものですから、昨年度パークゴルフを材料にして、そういったものを1回やったことございますが、今の木ノ下議員ご提言のありましたことについても、とにかく何をやったら効果があるかという、こういう答えはあらかじめわかりませんが、打てる手は打って、その中で本当に1組でも結婚する人たちが出てくるということは、本当に必死でやっていかなければいけないと思っております。種々、いろいろ考えて、まず足元からやってまいります。

○議長（八重櫻友夫君） 6番木ノ下祐治君。

○6番（木ノ下祐治君） 人口減少の推移のほうからちょっと統計の推移から追ってみたいと思うんですが、これは実質ここにおられます長内君を対象にこの統計をちょっと考えてみました、年齢からぼって。

長内君は、今たしか35歳です。本人がうなずいていますからそのとおりです。ただいまの生産人口年齢、久慈市の女性は、これは生産年齢ですから、またこれを言うとちょっとおかしくなるんですが、数字上は1万1,189人ですよ。ところが、例えば、長内君が大体60歳ごろになったときです。大体西暦2037年ぐらいのころかな、大体60歳近くのあたり。そのときの数字になりますと、今1万一千何百人あるんですが、そのとき6,640人、6,600人、半分になってます。この数字を見るならば、私は、職員の皆さんにも議員も全てここにいる人物で例えるならばわかりやすいと思って、これをつくっていただいたんですよ。例えばの話だとわかりづらいですね。

実質、長内君がもう60歳ぐらいになったときは、女性もこうやって見渡さなければいなくなっているかもしれません。本当ですよ、皆さん。統計がそうなる

るんですから。久慈市の町の内なら、市内のうちなら、この辺だったら、それはまばらには見えるかもしれませんがね。でも侍浜あたりには、私の地域には、恐らく今800世帯あると思うんですが、果たしているのやらないような、そういう状況になるなど、恐ろしい現状が来るなど。

このまま手を打たなければという話ではございますけれども、かなりこれに近い状況になるわけですよ。かなりこれに近い状況になると思います。皆、市長も当然、市民の皆さんもそれなりには努力するわけですよ。こうなってほしくない現状ですから。ですから、とにかく、職員の皆さんでもいいから、独身の人はとにかく私が独身なんだということを表明させろと。だから、私は市長にも言ったんですよ、具体的に。とにかく誰が独身だかわからないようではうまくないという意味です。そうすれば、私が興味を持っているあの人が独身なんだということがわかってくるわけですからね。教えることですよ、実際問題。そうでなければ知らないわけですからね。

そういうことでございますので、具体的な対策といっても、今のところ難しいでしょう、そうは言いましたも、長期的な。とりあえず答弁をお願いいたします。

○議長（八重櫻友夫君） 遠藤市長。

○市長（遠藤譲一君） 木ノ下議員、ご心配されてるおりの将来が何にもしなければ、本当にそのとおり実現する危険性がありますので、それに向けまして、今地方創生もそうですが、人口減少対策をどうするか、雇用の場をいかにつくるかということも取り組んでおります。

子育て環境も大事です。久慈市は、企業の皆様、社長さんたちとお話をしますと、人手不足だと。これは久慈市だけではなくて、全国的な地方の現状と。人がとれないと。仕事があるんだけれども、従業員が確保できないと話でございます。そういったところも情報としてはしっかり出さなければいけないと思っております。

私も、いろいろ地域にも入って、いろいろ皆さんと意見交換しますが、特に高齢の方は、先入観として久慈は仕事がないという話をよくされるんですが、現実には企業の皆さんから聞くと、高卒の正規採用、募集をかけても振り向いてくれないと。確かに勤務条件等が首都圏に比べると大分低いのかなというお話もござい

ますが、実際手元に残るお金からいくと、こちらのほうが絶対有利だというお話も皆さんされるんですが、それでもやはりやっぱり首都圏東京、大都会に行ってみたいなということなのかなと、話も出ますので、そこら辺も私は出かけるたびに話をしています。

人が足りないんですと、現状はそうなんです。しっかり事実を見据えた上で子供さんたちに語っていたかかないと、自分の子供、孫に久慈は仕事がないから学校を終わったら都会だなと。こういう話をし続けると、聞いてるほうはそうだというふうに思うと思っていますので、そこら辺の教育も中学生レベルからやっつけていかなければいけないと思っています。

あわせまして、子育て環境、やはりこちらは共稼ぎが多い家庭、所得もやはり低いほうで推移しておりますので子育てがしやすいと。1人よりも2人、2人よりも3人と生んで育てられるなというふうな、その環境づくりは、行政としてもしっかり取り組んでいかなければいけないと思っています。

あとは、教育レベルの問題もご置きます。まちの活気が出てないと、やはり若い方は魅力を感じないということもご置きますので、絵がかりで全体よくしなくちゃいけないと思っています。

あとは、今、木ノ下議員お話ありましたように、地域によって状況が違いますので、これからは公民館と支所を中心に地域に皆様に入っていて、その地域で若い人たちが少なくなってる、その原因は何かということもみんなで共有した上で、どういう手を打っていくかということも、それぞれの地域が一生涯命取り組んで、そして、打てる手を打っていくと。そういう動きを、久慈市役所だけの問題ではないと思うんです。久慈市にとっては大きな問題ですが、住んでいる市民の皆さんの問題なので、そういうふうな問題提起もしながら、しっかりと取り組んでいきたいというふうに考えております。

○議長（八重櫻友夫君） 6番木ノ下祐治君。

○6番（木ノ下祐治君） よろしく願いいたします。

一つのことだけでも時間がなくなりましたが、それでは、一つ産業経済部長にお尋ねいたしますが、今、岩手県で平成29年度あたりに、これは仄聞ですが、林業専門大学、短大か4年制になるかわかりませんが、恐らく短大クラスだと思っておりますが、そういうものをつくるかという情報がありますが、聞いておりますか。

○議長（八重櫻友夫君） 浅水産業経済部長。

○産業経済部長（浅水泰彦君） ただいまの林業の専門大学と申しますか、そういった整備計画があるかというふうなご質問でございます。

私どももそういった情報が、議員からちょっと事前にはいただきまして、情報収集したところでありますが、そういった大学というレベルのものまでは今のところ検討はされていないということでございます。

ただ、先月でございますが、林業人材育成のあり方検討会というふうな中で、いずれ将来のその林業担い手をどのようにして確保していくか、育成していくかというふうなことが検討されたというふうなことは伺っておりますが、お話がありました大学等の設立というところまでは触れられていないというふうなことでございます。

以上でございます。

○議長（八重櫻友夫君） 6番木ノ下祐治君。

○6番（木ノ下祐治君） ちょっと残念な話ですが、そういう方向に動いているようでございます。そういう動きはあるようです。

私どもが今、林業業界で県北沿岸で今、人材育成をするための組織づくりをしようとして動いております。恐らくこの促進協議会なるものは、8月中にできるかどうかちょっと微妙なんです、そのあたりには協議会を立ち上げたいなど。そのように動いております。まだ恐らく久慈市のほうにもその文書は恐らく届いていないと思います。そろそろ今月6月、7月ごろになりますか。そのころになれば、多分その文書も届くと思っておりますので、まず、そのときは、森林組合、久慈市をはじめぜひご協力をいただきたいのですが、それについてもご答弁をお願いいたします。

○議長（八重櫻友夫君） 浅水産業経済部長。

○産業経済部長（浅水泰彦君） ただいま林業後継者育成のための協議会を地域として立ち上げる動きがあるということでございました。

お聞きしたところによりますと、当久慈広域圏、それから、葛巻、岩泉等を含む、そういった広いエリアというふうにお伺いしているところでございます。広葉樹資源の維持と申しますか、そういったものを活用した中で林業をしっかりと振興していくための協議会組織というふうに向っております。

いずれこういった民間組織が、まずはそういった協

議会設立の動きがあるということは、非常にありがたいお話だと思っておりますし、当然にそういった協議会が立ち上がって活動していく際には、行政もしっかりとかかわっていききたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（八重櫻友夫君） 6番木ノ下祐治君。

○6番（木ノ下祐治君） 私は、今期限りで議員を勇退しますので、今回が最後の質問となったわけですが、いずれにしても、これからの久慈市、人口問題からこういう人材育成、避けては通れない道でございます。こういった点を踏まえて、よりよい久慈市をつくっていただきますようお願いいたします。私の関連質問を終わらせていただきます。どうぞよろしく願いいたします。ありがとうございました。

○議長（八重櫻友夫君） 11番澤里富雄君。

○11番（澤里富雄君） 上山議員の一般質問に関連して何点かお伺いしたいと思います。

まず最初に、質問項目3番の久慈広域の組織連携にかかわってお伺いしたいと思います。

三陸沿岸道路の完成を見据えまして、久慈広域4市町村が連携して久慈広域行政研究会ですか、立ち上げたということですが、この中で大規模な道の駅構想が出されておりますけれども、私もこれについては大賛成でありますけれども、開通までには合意形成を図るとのさきの議会で市長のほうからお話がありましたが、この勉強会が立ち上げられて、これに東北運輸局も勉強会に参加の意向を示されたという話がありましたけれども、このことは道の駅構想の実現が大変期待されるわけですが、その後の進捗状況、あるいは可能性についてどのように捉えているのか、お伺いをいたします。

○議長（八重櫻友夫君） 一田総合政策部長。

○総合政策部長（一田昭彦君） いわゆる久慈広域行政研究会での道の駅共同設置、広域での設置についての勉強会という形で2回ほどこれまで開催しております。これにつきましては、広域の4市町村だけでなく、振興局、それから、三陸国道事務所の方々にも来ていただきまして、まずは、拠点となる道の駅のいろいろな累計別の機能の勉強をしたりとか、あとは、道の駅の機能強化に係る国の取り組み状況の勉強から始まりました。

そして、それから、2回目になります。2回目で

すと、実際に、本線直結型とはどういうものなのか。インターチェンジ近傍型はどのような形なのかの勉強も始めまして、それから、各テーブルごとに分かれまして、共同設置で整備する場合のメリット、それから、どういう道の駅にしたいのか。それから、これから検討を進めていく上で必要なことなどがいろいろ意見交換されました。

これからでございますが、やはり他の道の駅の事例の、そういう勉強をしたりとか、他の道の駅の事業費とか運営とか、ランニングコストとかというのを実際にやっぱりいろいろ勉強したり、そういう部分もやっていかなきゃならない。また、住民アンケートの話もありましたが、これにつきましては、やはり広域の市町村長のやはり方向性がしっかり確認なされた段階では必要かと思えます。

そういう部分で、これからやっぱり三陸国道事務所以外にも国のそういう方々の参加も可能性があるので、一緒に勉強していきたいと考えております。

以上です。

○議長（八重櫻友夫君） 11番澤里富雄君。

○11番（澤里富雄君） ぜひ、関係団体、たくさんの団体がかかわっているようですので、ぜひ実現されるように努力していただきたいと、このように思います。

それから、また、この広域の連携についてかかわってでございますけれども、日本国内の繊維工業にかかわる人材が全就業者数の1%、全国だと1%にも満たないようなのですが、その中で久慈地域では、地域労働者の約5.4%が、これは全国比の約5倍になるそうですが、繊維工業に携わって、地域の働く女性のために大きく貢献されている産業であります。

このことから、久慈地域は確かなものづくりが継承されて、市長も前にもお話ししましたが、縫製、それから、繊維関係企業が集積して、国内有数のものづくり地域だと言っておりますけれども、三陸沿岸道路が開通しますと、無料の高速道路で冬は雪も少なく、流通が極めてよくなり、この誘致企業も張りつく可能性が大いにあるわけですが、この国内有数のものづくり地域と言われる久慈広域が連携して、さきの新聞でも出ましたけれども、県北二戸と久慈ですか、この繊維関係の連携の報道がありましたけれども、先ほど少子化の中でも出ましたけれども、女性の地元定着、あるいは、先ほども出ました少子化対策、こういった



関係もかかわるわけですが、この縫製、繊維団体の企業誘致を強力に推進すべきと思いますし、また、それとあわせて今あるこの繊維関係の企業の育成、これにも努めていかなければならないと思いますけれども、ご所見をお伺いいたします。

○議長（八重櫻友夫君） 遠藤市長。

○市長（遠藤謙一君） 澤里議員のお話のとおり、久慈地域は、縫製業、国内の一大集積地となっております。二戸地域もしっかりと企業立地しておりますので、この県北地域連携して、さらに充実強化をしたいということで、県も力を入れていただいております。それぞれの縫製業の企業ごとの課題を、人材育成含めて技術の向上、いろいろ問題等も聞いておりますので、そういった面も含めて取り組んでいきたいと思っております。

あわせて、金ケ崎地域、北上周辺では、自動車産業集積しておりますが、シート関係もかなり立地しております。県ともいろいろ話しておりますが、そういったところのいわゆる洋服、服だけではなく、別な業態としての繊維振興、こういったものを取り組めないかというふうな可能性も探ってまいりたいというふうに思っております。

とにかく、やっぱり集積地となりますと、さらに企業が来ると。お呼びすることも可能になりますので、本当に、さらにこれを充実強化して、特に、出産適齢期の若い女性の雇用の場をしっかりとつくっていくと、これは少子化対策上も非常に大きな意義があるというふうに考えております。

○議長（八重櫻友夫君） 11番澤里富雄君。

○11番（澤里富雄君） ぜひそういった形で努力していただきたいと思います。もったいないと思います。全国比5倍の人がこの繊維工業にかかわっているという集積の地でありますので、ぜひお願いしたいと思えます。

また、もう1点だけ久慈広域の連携についてお伺いしたいと思いますけれども、久慈広域には、さまざまな特産品、あるいは産業があるわけですが、これを久慈広域の市町村がそれぞれ競争することではなく、きのうも出ましたけれども、高屋敷議員さんでしたか、畜産の広域連携について話がありましたし、それから、濱欠議員さんからでしたか、広域連携による第三セクターの設立の考えも話が出ましたけれども、久

慈市がこの広域4市町村の中では市は久慈市だけです。久慈市がリーダーシップをとりまして、この道の駅構想だけでなく、これにとどまることなく久慈広域が連携して、地域のあらゆる産業が広域で発展するような施策となるような久慈広域行政研究会ですか、この中でお話をさせていただきたいと思っておりますけれども、再度お伺いいたします。

○議長（八重櫻友夫君） 遠藤市長。

○市長（遠藤謙一君） この管内4市町村ございますが、それぞれの市町村に企業立地を図るということは、現実的には非常に厳しいだろうという話もそれぞれ首長さんもされてます。この管内、久慈市ということではありませんけれども、管内のどちらかに、しっかりと雇用の場が集積すれば、あとは自分の市、町、村から、自宅から通勤すればいいのだというふうなお話もされております。そういう意味ではいい意味でのリーダーシップをとりながら、産業振興を図っていかねばいけません。思っております。

先ほど出ております広域の道の駅構想でございますけれども、この被害を受けました三陸は、現在のところそれぞれの市町村が道の駅をつくるという話が出ておまして、まとまって一つつくろうという動きは、この県北久慈地域だけでございまして、そういう意味でも国も注目をして、県も関心を持っていただいております。ぜひともこれを突破口として、それに続く産業振興、久慈市しっかりとリーダーシップをとってまいりたいと思っております。

○議長（八重櫻友夫君） 11番澤里富雄君。

○11番（澤里富雄君） ぜひ、広域は一つという基本理念のもと、ぜひ頑張っていただきたいと思っておりますので、よろしくお伺いいたします。

次に、質問項目の13番ですが、総合運動公園整備についてお伺いしたいと思います。

きのうのお話であります。基本構想については、市民の意見あるいはアンケート、それから、種目別、あるいは市政懇談会等の意見を聞き、基本構想の策定に取り組むとのことでしたけれども、これらは、きのうちょっと聞き逃したかもしれませんが、こういった懇談会あるいは聞き取り等は行われて、いづろ集約されて、市民あるいは議会等に示されるのが1点。

それから、建設場所についてですが、これまで6カ所が候補地として出されておりましたけれども、

行き詰まった状態になっておりましたが、この6カ所を示してコンサルにお願いするのか、あるいは新たな場所をコンサルが見つけて選定して策定されるのか、お伺いをいたします。

○議長（八重櫻友夫君） 澤里教育部長。

○教育部長（澤里充男君） 総合運動公園整備にかかわって、ただいま基本構想について業者さんに委託いたしまして業務を進めているわけですが、その中でいろいろ市民アンケートとか、集約の時期とかということですが、まず、今現在6月では、資料収集とか、方針の決定とか、そういったものを行っておりまして、さらにアンケート調査とか、聞き取りの今準備をしております。ということで、7月に入りましたら、順次聞き取りとか、アンケートとか、そういったものを進めてまいりたいというふうに考えております。

それから、いろいろまでに集約させるのかということですが、一応、10月末を報告の期限ということで契約をしておりますので、それまでには報告書を作成するという形にしたいと思っております。

あと、議会の説明につきましては、その前段階のところで何とかご説明をしていきたいというふうに考えております。

それから、今までの経緯から6カ所ほど候補地ということであったわけですが、それにつきましても、資料としてコンサルのほうに提示しておりますし、その前にも総合運動公園という構想があったわけですが、そういったところの資料等も全て資料としては提示しております。

それプラス、あと委託業者さんのほうで、さらに市内を見ていただきまして、その中で新たな候補地があれば、そこら辺も含めて第一段階の候補地の選出ということで、そこから絞り込んでいくというふうな手順になるかと思っております。

以上でございます。

○議長（八重櫻友夫君） 11番澤里富雄君。

○11番（澤里富雄君） 今、お話になった設置場所ですか。これについてのご提案ですが、三陸沿岸道路が整備されまして、長内にインターが予定されているわけですが、以前から候補地に上げられております南田地区ですか。ここが適地じゃないかなと思うわけです。

また、きのうもちょっとお話が出たような気がしますが、この広域連携での道の駅構想、これは、広域への働きかけも必要になってくるわけですが、普代、野田、久慈、洋野の中間ぐらいであります芦ヶ沢付近に道の駅が出て、そして、総合運動公園が南田地区に出ると、これらを集積することによって、先ほど教育委員会のほうからも話がありましたけれども、取りつけ道路等の道路アクセス、あるいは環境、整備経費、将来性等見た場合、極めて有効な候補地じゃないかなと思いますが、ご所見をお伺いしたいと思います。

○議長（八重櫻友夫君） 澤里教育部長。

○教育部長（澤里充男君） ただいま澤里議員のほうからご提言をいただいたわけですが、長内インター近く、そして、交通アクセスとか広域連携、そういったものの交通条件とか、非常にいい場所だというふうに私も感じております。

今業者さんをお願いしているのは、そういった諸条件、交通アクセスもそのとおりでございますし、そのほかにも気象条件とか、やませの関係とかもありますし、あと、造成費等のかかわりも出てくると思っております。そういったものを十分精査いただきながら絞り込んでまいりたいというふうに考えておりますので、ただいまのご提言も参考にさせていただきたいと思っております。

○議長（八重櫻友夫君） 11番澤里富雄君。

○11番（澤里富雄君） もう1点お伺いしたいと思いますけれども、平沢の運動公園ですが、陸上フィールド内の芝生化が検討されたと聞きましたけれども、その進捗状況がどうなっているのか、お伺いいたします。

○議長（八重櫻友夫君） 加藤教育長。

○教育長（加藤春男君） 今の平沢の芝生化ですが、教育委員会としては、内部では検討はいたしましたけれども、現段階では芝生化にするというふうなことについては、まだ結論は出しておりません。

以上でございます。

○議長（八重櫻友夫君） 11番澤里富雄君。

○11番（澤里富雄君） わかりました。それでは、時間がなくなりました。せっかく選挙管理委員会にお願いしておりましたので、お伺いしたいと思いますけれども、衆議院が通過して先ほどのお話もありましたけ

れども、きょう参議院の全会議で可決の見込みとなっているわけですけれども、18歳選挙権が実現しますと、高校、大学生をはじめ約240万人ですか、あるということで、久慈市には先ほどの答弁だと700人の新有権者が誕生すると言われましたけれども、高校3年生、18歳対象ということになれば、高校3年生になるわけですけれども、3年生の中で4月、一番早い人は4月2日ですか、4月2日で有権者になる人、あるいは3月末まで非有権者である人が同じ高校の中に混在するような状況になるわけですね。

そういう中で、高校生の政治活動のあり方、あるいは、これの教師、先生方の政治課題に対する見識というか、考え方がそれぞれ違うわけですね。こういったことで、現場が混乱するんじゃないかなという思いがあるんですけれども、その辺をどのように捉えているのか、お伺いいたします。

○議長（八重櫻友夫君） 夏井選挙管理委員会事務局長。

○選管事務局長（夏井正悟君） ただいま澤里議員さんのほうからの18歳の選挙権についてのお話がありましたけれども、先ほど本日の参議院のほうで可決成立したというふうなことでございますけれども、その点、大学、高校生の中でも選挙権を有する方が出てくるというふうなことはご指摘のとおりでございます。

今のところ、このようにしたほうがいいという大きな方向性は出ておりませんが、公布から1年後の施行というふうなことでございますので、県選管等々、それから、明推協、明るい選挙推進協議会等と学校のほうに向いて、何らかの普及啓発していかなくやいけないというふうには捉えております。

また、総務省のほうからもそのような部分で教材等をつくって啓発していくんだというふうなこともありますので、できるだけ早い時期に、高校さんのほうとも連携をとりながら啓発活動を始めてまいりたいと考えております。

以上です。

○議長（八重櫻友夫君） この際、昼食のため休憩いたします。再開は午後1時といたします。

午前11時55分 休憩

午後1時00分 再開

○議長（八重櫻友夫君） 休憩前に引き続き会議を開

きます。

新政会代表、上山昭彦君の一般質問を継続します。

関連質問を許します。12番中平浩志君。

○12番（中平浩志君） それでは、上山議員の一般質問に関連し、何点か質問させていただきます。

まず、1番目の市の市有地の利用について。

経緯は先ほどお聞きしました。10月に打診があって、シルバー人材センターと協議しながら12月に決定、3月から契約ということなようですけれども。私、タクシー業界の人とか、隣の金融機関の人たちから聞いても、突然の話だったというふうな感じで聞かされました。前もつてもうちょっと事前に話してもらわないと、駐車場を借りるのも大変だったし、あの場にいるタクシー会社の人たちも、どこに行って今度お客さん待ちをしたらいいのかというふうな声も聞かれました。

私、民間に出すのは別に悪いとは言いませんけれども、市の土地ですから、それなりに利用してる方々のことを考えると、事前にきちんとした説明があつてしかるべきだったなというふうに思います。

その点について、どういう考えなのかお伺いいたします。

○議長（八重櫻友夫君） 勝田総務部長。

○総務部長（勝田恒男君） ただいま、レンタルの土地の貸し付けについての質問をいただきました。その周知期間、十分とらなかつたのではないかとということでございます。

シルバーと協議した際には、シルバーのほうからは、月決めの契約者への周知のために、3カ月程度は時間が欲しいというようなことを言われて、その期間は一応考慮したつもりでございますが、こちらから例えば金融機関ですとか、市民への周知というのはなかつたということで、今後において、そういったことに気をつけながら進めたいというふうに思います。

以上です。

○議長（八重櫻友夫君） 12番中平浩志君。

○12番（中平浩志君） シルバーさんのほうから、3カ月間の猶予を持ちながら説明という今答弁だったんですけれども、それはそれとしながら、市民の皆さん方も何が建つんだろうという感覚でもちろん見ました、私を含めて。初めて外観が見えてから、レンタカー屋さんなんだと。もともとこっつて市の土地だよねという話にもなったんですよ。

だから、そういった部分では、市有地を貸すということになると、ある程度、市民の皆さん方にもお知らせしないと、ただ単に貸したからいいという発想でも私はないのかなというふうな気がします。

あと、契約は何年ごとの契約で、何年間契約するのか。あと、支払いというかな、料金発生すると思いますので、それについてはどのようになっているのかお伺いいたします。

○議長（八重櫻友夫君） 勝田総務部長。

○総務部長（勝田恒男君） 契約は1年契約となっております。ただ、双方に異論がない場合は継続するというような契約条項のもとで契約をいたしております。

あとは、支払いの関係ですが、料金については一括支払いということなようでございます。

○議長（八重櫻友夫君） 12番中平浩志君。

○12番（中平浩志君） 金額は幾らなのかなと聞いてきましたけども。あと、それと付随しながらなんですけども、例えば貸すということは、もし民間会社ですから、景気が悪いから引き上げますといった場合、どのような形で撤去するのかなということ、極端に言う。

あれ、基礎をきちんと打ってますよね。ということは、地上権が発生してますし、市の土地ですから、市で動いてくださいと言ったって、地上権が発生することは、動けないということになりますよね、動かさなければ。そういうふうなものも考慮しながらの貸し借りになっているのかも含めてお伺いいたします。

○議長（八重櫻友夫君） 勝田総務部長。

○総務部長（勝田恒男君） 大変失礼しました。金額でございますけれども、年額107万3,000円。約でございます、端数もつきますけれども、約年額107万3,000円でございます。それから、貸付面積については902.60平米となっております。

それから、基礎等を打ってるということで、撤退した場合の条件ということでございますが、契約書の中では、立ち退きの場合には全て更地に戻して返還すると。例えば、あと一つ、公共用地として必要になった場合がございますが、そういった場合も契約をこちらで解除すると。解除された場合であっても、更地にして返還すると。こちらがそのままいいですよと認め

た場合は、この限りでないとなっておりますけども、いずれ更地にして返すというのが基本となっております。これは契約書上でそのようにうたっております。

以上です。

○議長（八重櫻友夫君） 12番中平浩志君。

○12番（中平浩志君） 今の部分で大体わかりましたけども、それでは次に、人口減少対策、これ全部にかかわると思います。2、3、4、全体的な部分にもなりますけれども。先ほど来、木ノ下議員も話をしましたけれども、数字だけ見てると、数字だけというのも変ですけども、見てると怖い部分があります、正直言

って。久慈市の人口が、2080年になると1万弱で1万人切るのが、2085年だともう9,000人ですよ。1万人切ってますよ、本当に。近い将来なんですけども。そういった部分考えると、今すぐどうのこうのというのは、何回もやりとりしても、今すぐ結果が出るわけじゃないんですけども、本当真剣に考えていかないと、これは大変な問題だなと。極端に言えば、100年後ぐらい、久慈市、誰もいなくなるかもしれません、正直言

って。そうなった場合、どうするんですか。自治体自体がもうもちろんなくなっていますよね。だから、そうならないために、いかに今から手を打つかというのが、本当の私は課題じゃないかなというふうに思っています。

木ノ下議員も話をしましたけども、市の職員で、例えばもうちょっと内部でのコミュニケーションというのかな、出会いの場というのかな、そういうふうな場面も、市長が先導になって取り組んでもどうなのかなというふうな気がしますけども、再度答弁をお願いします。

○議長（八重櫻友夫君） 遠藤市長。

○市長（遠藤譲一君） 結婚問題は本当に重要な課題だと思っております。久慈市の一番の課題は何かと言われれば、一番大事なのが、この人口減少と若い人たちがどんどん減っていくと、これが一番の問題だと思っておりますので、これに向けてどうするのかというのを真剣に考えてやってまいります。

市の職員同士の結婚も、それは選択肢としてあるんですけども、中だけの話じゃなくて、そうじゃない方との縁組みもしっかりとやっていかなければなりませんので、議員のご提案ありましたのは、まず足元から

始めないとだめじゃないかということだと思いますので、これについてもこれからしっかりと成果が出るようにやっていかなければいけないと思っています。市民の皆さんにお声がけするだけで、肝心の市役所はどうなってるんだということになりますと、これはご批判いただくことになります。

結婚をするかどうか、誰と結婚するか、まさに個人のプライバシーにかかわる問題ではあるのですが、ただ、これは久慈市にとっての大きな問題ですので、具体的にいろんなことをやっていきたいと思っています。

○議長（八重櫻友夫君） 12番中平浩志君。

○12番（中平浩志君） それでなんですけど、人口減少を含めてなんですけども、今喫緊でも、例えば先ほど来話題になっております、いつも我々も話をしているとおり、若い人たちが久慈市から出ていってしまう。なかなか帰ってこない。なおかつ、仕事場がないのかといえば、私も会社やってますけども、募集出してます。来ません、極端に言う。だから、そういった部分も含めて考えると、仕事がないんじゃないかと、ただ単に憧れでもう行ってしまってるような感じもあるんですよ。

だから、地元の高校の魅力化とか、そういった部分も含めながら、中学校、極端に言えば小学校から、地元はいいところなんだよと、久慈市はいいところなんだよというふうな教育もしながら、できるだけ地元に残ってもらえるようにしていくのも私は必要かなと思っています。1人だけでやるというのは難しいんですけども、これは民間も含めて、全体として物事を考えていく必要があるというふうに思っておりますけれども、その辺について伺います。

○議長（八重櫻友夫君） 遠藤市長。

○市長（遠藤譲一君） 私もこの町に生まれておりますけども、どうしても自分の生まれた町、住んでいる町の悪いところを数え上げるというふうな、大人がそういうふうなところも結構あるなというふうに思っております。

今、「あまちゃん」でも、たくさんの方から全国から来ていただいて、あまちゃんファン、特に1年間に二十数回来ていただいている方等もいらっしゃいますけれども、その方々が共通しておっしゃいますのは、久慈はいいところですよ。人もすごくいいし、景色だけじ

やなくて、食べ物もおいしいんですけども、何といても人がいいですと。こんないい町はないですねというふうなお話もいただいておりますので、そういうプラス面の久慈の魅力、いいところを、私たち大人が子供たちに、孫たちに語っていかねばいけないと思っています。

そういう意味で、現実には高齢化が進んで、子供たちが減って、小中学校、人数が減ってるなどという話はあるんですけども、そういう話だけではなくて、このいいところをぜひ、これは大人みんながそれを取り組む。市役所が何か語ればいいって済む話じゃなくて、普段からそういうふうな心がけていただいて、いいところいいところ、いい町だから、こうやって私たちが住んでるわけですけども、それをもっと子供たちに伝えていく必要があるだろうと思っています。

先日も久慈高校、全校生徒を前にして1時間お話をしてまいりましたが、去年は久慈中学校も行ってまいりました。私も子供たちに対して、久慈のまちづくりを語る機会をどんどんつくっていきたく思うんですが、その際に久慈の良さを、そして久慈のまちづくりに中高校生がしっかりとかわかってほしいというメッセージを、これは出していきたく思っておりますし、皆様にはそれをお願いしたいというふうに思っております。

○議長（八重櫻友夫君） 12番中平浩志君。

○12番（中平浩志君） 本当何回もこれも話が出るんですけども、今市長も話をしたとおおり、我々はマイナス思考で物事を考えてしまう傾向があるなど、私自身も含めて。それが年をとればとるほど、そういったマイナス思考になるのかなというふうな気もしますけれども。我々も議員も含めながら、そういった部分では注意しながら、久慈市の良さを広めていってもらいたいもんだなというふうに思います。

それで次は、国で出した地元負担なんですけども、大体6,000万ぐらい、久慈は負担がっていう形で答弁がありましたけども、そっちのほうにいきます。

我々議員もそうなんですけども、そういった部分では、財政が厳しいというのは重々わかってます。だから、そこでまたさらに地元負担がふえるということは、さらに財政が厳しくなる。だから、私はいつも思ってるんですけども、我々の部分でも削れる部分はきちんと削りながら、それをできるだけ市の財政のほうに回

しながら、いろんな事業でもできる分についてはやったほうが私はいいいというふうに思っています。

だから、極端に言いますと、本当に変な言い方ですけど、来月選挙なんですけども、そういった部分でも、私はそういうふうな部分を幾らかでも削りながら、それを市の行事、事業等に回していくというのも我々の責務じゃないかなというふうに考えております。

そういった部分では、もうちょっと市の皆さん方も含めて、全体的な財政、どういうふうな形でやっていったほうがいいのかというのを真剣に考える、私は時期になってきているのかなというふうに思います。そういった部分での今後のやり方というのかな、それについて、市長の考えをお伺いいたします。

○議長（八重櫻友夫君） 遠藤市長。

○市長（遠藤謙一君） 議会の場のみならず、市民の皆様からはたくさんのご要望が出ます。身近なところから大きな問題まで、たくさんのお話をいただきます。何とかしたいというふうに思ってるんですが、常に財源の問題、お金がないことには袖は振れないということがございます。

そういう意味で、昨年度も副市長1人にいたしました。1,400万程度の経費がかかるという話だったので、そういったものを削りながら、職員もしっかりと、人の1.5倍ぐらい稼ぐと。市民の皆さんのための仕事をするというふうにしていきたいと思いますし、無駄とは言ってなんですけども、絞れるところはしっかり絞っていくと。

ただ、絞るだけじゃなくて、これから子育て、あるいは介護の問題とか、教育、こういった人にかかわる分については、待ってくださいますでは済まない部分もありますので、かけるところはしっかりかけるというふうにしていかないといけないと思っております。

これから合併の特例等が切れるということで、交付税が減ると、国からはそういう厳しいメッセージが届いておりますので、その中で久慈市の経営をどうするかと。本当に甘いことは言ってもらえないと思っておりますけども、全て緊縮では、これは夢も希望もなくなりますので、そういう意味で、かけるところはかけると。そうじゃないところは、市民の皆様にもしっかりご理解いただいて、我慢していただくことは我慢していただかないといけません。

そのためには、私自身、説明をしっかりとしていかな

ければいけないと思っております。ましてや、ばらまき行政、あつてはならないというふうに思っております。これから先も久慈市の財政が健全に運営できるよう、これが第一だと思っております。

以上でございます。

○議長（八重櫻友夫君） 12番中平浩志君。

○12番（中平浩志君） 本当にそういった部分では、我々自身もそういった部分では心がけていかなきゃならない部分だというふうに私も考えてます。

あと、8番の一次産業の人材育成なんですけども、これも人口減少問題等にもかかわってきますし、午前中、澤里議員も話をしましたが、広域的な物事で考えていってもいいのかなと。一次産業は、何も久慈市だけじゃないんですよ。隣の野田村さんもあるし、普代さんも、洋野町さんも全部一次産業。農林業そろってます。

だから、そういった部分でももうちょっと広域的な物事で進めていったほうが、私もいいんじゃないかなというふうに思ってますし、ただ単に一つの自治体だけでやってしまうと、どうしても金銭面でも、財政面でも大変厳しくなりますので、ある程度そういった部分でも分散しながらという感覚のやり方というのも、もっともって考えていったほうが私はいいいのかなというふうに思います。

なおかつ、企業誘致の取り組み、そういった部分でも、この（3）番にありますけど、久慈広域の組織の見直し、こういうふうなものもつながってくるのかなというふうに思います。

せっかく復興道路があつて何年かすれば開通しますので、そういった部分では、この復興道路をいかに生かして、企業の皆さん方から来てもらうかというふうなのを、きちっと市単独じゃなくて、久慈広域で考えていかなければ、私はだめなのかなというふうにも思っておりますので、その点についても考えをお聞かせください。

○議長（八重櫻友夫君） 遠藤市長。

○市長（遠藤謙一君） 間もなく復興道路が完成するというふうな状況になっておまして、企業誘致につきましても、あの震災以降、たくさんの企業から久慈市に対して応援したいという具体的なお申し出等もいただくようになっております。あまちゃんブームで久慈市の名前は全国区、全国に売れるようになりました

し、そういう面で企業をもっともっと、この高速道路も活用しながら、あるいは湾口防波堤の完成を見越してということなんですが、動いていかなければいけないと思っています。

久慈の特色、いいところをしっかりとつくって、アピールして、町ではなくて、人のルート、皆さんの人脈もおかしくしたいといつもお話しておりますけれども、どこか来るのを待つということでは市町村競争勝ち抜けませぬので、どんどん私自身動いていきたいと思っております。そうしますと、また次の選択肢が見えてくるということもございますので、これは議員の皆さんと一緒に取り組んでいきたいと思っております。

○議長（八重櫻友夫君） 12番中平浩志君。

○12番（中平浩志君） 時間もなくなってきましたので、最後だけ。この一次産業の人材育成で、よく私もたまたま話をしますが、例えば林業関係、せつかく遠島山とか、いい市有林持ってるわけです。これを後世に残していくことが、私は非常に大事なんだろうというふうに感じています。今はいいんでしょうけども、飲み水にも困りません。

ただ、ことしみたいに、雪が降らない、雨が降らない、そうすると、どうしても川の水なんか減ってきてます。そういった保水力を考えると、遠島山にある市有林等もきちんと手入れをしながら、後世に残していくのが我々の努めなのかなというふうにも思っておりますので、そういった部分をきちっとこれから行政として考えていく必要があるなというふうに思いますので、最後、その点についてお伺いいたします。

○議長（八重櫻友夫君） 中居副市長。

○副市長（中居正剛君） ただいま議員さんから、市有林、後世に残す必要があるんだというご提言いただきました。まさにそのとおりだと思います。この水資源の確保等々、さまざまな日本全国の問題としても言われている部分でございます。当市においては、自然に恵まれた地域でございますので、それを後世に伝えていくという部分が非常に大事だろうというように感じておりますので、それらについて、今後とも頑張りたいと思います。

以上です。

○議長（八重櫻友夫君） 19番中塚佳男君。

○19番（中塚佳男君） 上山議員の質問に関連して質

問いたします。

9番、水産関係補助金返還請求について関係して質問いたします。

皆さんもご承知のとおり、今まだ森のトレーの補助金返還が解決しておりません。その中に、また再びこういう補助金返還関係が起きるということは、もう少し市でも補助金を出す場合は、返還保証人とか、連帯保証人、こういう仕組みはできないのかどうか、まずお伺いします。

○議長（八重櫻友夫君） 浅水産業経済部長。

○産業経済部長（浅水泰彦君） 水産関係の補助金返還の問題に関しまして、補助事業全般、もっと慎重にといたしますか、しっかりと保証人を立てるとか、そういった仕組みがとれないのかというふうなことでございます。

今の行政の補助の中では、あまり保証人を立てるといふような制度はないわけですが、それを担保する意味では、しっかりと事業計画を精査すると、あるいはその裏づけとなる資料を求めるといふようなことで、慎重に事業を採択しているわけでございます。

ただ、今回の事案といたしましては、震災からの早期の復興というふうな中で、なかなかそのチェックの部分が十分でなかったというふうなことでございまして、今経過をたどる場合にも、なかなか提出された資料等から、そういった確認ができないというふうな状況もございます。

いずれにいたしましても、今後におきまして、いろいろな事業を実際に行っていくこととなるわけですが、そういった意味で、事業計画というものをしっかりと確認するということを進めてまいりたいと思っておりますし、当然今、国・県含めて、行政のあり方とすれば、議員おっしゃるとおり、こういった事案が二度と発生しないようにというふうなことで取り組んでまいりたいと思っております。

以上でございます。

○議長（八重櫻友夫君） 19番中塚佳男君。

○19番（中塚佳男君） 次は、2番、人口減少問題にかかわってお尋ねいたします。

先ほどからいろいろな角度で、いろいろ議論されましたが、この際、市長みずから先頭に立って、独身者と語る会とか、そういうのを思い切って1回実行してみたらどうだろうと思っておりますけど、市長の考えをお伺

いたします。

○議長（八重櫻友夫君） 遠藤市長。

○市長（遠藤譲一君） 昨年の3月の市長就任以来、ふれあいトークというふうに銘打ちまして、市民の皆様、小グループの集まりに呼んでいただいて、本音の意見交換を行っておりますので、今議員ご提案ありました、そういったものについても、ぜひ積極的にやっていきたいと思っております。

○議長（八重櫻友夫君） 再質問、関連質問を打ち切ります。

次に、公明党、山口健一君。

〔公明党山口健一君登壇〕

○9番（山口健一君） 公明党の山口健一です。第2回6月定例会議に当たり、市長並びに教育長に一般質問を行います。

2011年3月11日に起きた東日本大震災から、早いもので4年数カ月が過ぎました。改めて、被災された方々に心からお見舞いを申し上げます。いまだ復興は道半ばであり、一日でも早い復興が望まれています。

私たち議員も、7月の改選期に当たり、今任期最後の質問になります。

それでは、通告に従い順次質問をいたします。前の質問者と重複する部分もありますが、割愛せず質問いたします。

質問の第1は、地方創生の推進についてであります。

本年は、ふるさと創生元年とも言われています。少子高齢化がますます進む中で、地方の生き残りの政策が問われています。

そこで国では、まち・ひと・しごと創生法を制定しました。市町村では地方版総合戦略の策定が努力義務とされています。当市の策定状況について伺います。

2番目は、震災復興事業の地元負担についてであります。

国では、復興事業について、復興集中期間が終了する平成28年度から地元負担を求めるとしています。当市でも湾口防波堤や国道281号など、復興の遅れが心配されます。影響について伺います。

3番目は、仮設住宅についてであります。

遠野市では、仮設住宅を改修し、常設の市営住宅として活用するとの報道がありました。仮設住宅の活用策については以前も質問しておりますが、当市でも市

営住宅としての活用を検討すべきと思いますが、ご所見をお伺いいたします。

4番目は、交通弱者対策についてであります。

山形町でタクシー業者が撤退したと聞きます。地域住民は不便を感じていると思います。交通弱者対策として、ある自治体ではNPOなどを設立し、有料でのタクシー業務を行っているところもあるようです。当市の交通弱者対策をどのように考えているのか伺います。

5番目は、交通安全対策についてであります。

本年6月から、自転車で危険な運転を繰り返す人への罰則が強化されました。住民への周知の徹底が望まれています。取り組み状況について伺います。

6番目は、生活困窮者支援についてであります。

生活困窮者自立支援法が本年4月から施行され、生活や就労に関する窓口の設置など、自立支援に向けた取り組みが自治体に義務化されています。そこで、当市の取り組み状況について伺います。

7番目は、認知症対策についてであります。

認知症の患者を持つ家族には、24時間介護というような重い負担が強いられています。最近、認知症の患者が増加傾向にあり、家族などの負担軽減のため、認知症にならないためにも、早期発見や予防が重要になってくると思います。当市の具体的取り組みについて伺います。

8番目の産業行政について3点お尋ねいたします。

1点目は、大川目ほ場整備事業関連についてであります。

一つ目は、ほ場整備内にある農村公園の管理についてであります。現在、農政課で管理していると思いますが、管理が不十分ではないかと思っております。そこで、指定管理など委託の考え方について、また、公園内にトイレ設置を望む声もありますが、考え方について伺います。

二つ目は、耕作道の整備についてであります。畑田農道に接する耕作道は交通量も多く、路面の損傷が多く見られます。農道として改良舗装すべきと思いますが、ご所見をお伺いいたします。

2点目は、集落営農の推進についてであります。

米価の下落など、米農家は危機的状況にあります。現在、宇部地区ではほ場整備を行っていますが、集落営



農がなかなか進んでいません。コスト削減など、集落営農の推進が望まれています。集落営農を進めるためにも、ほ場整備とあわせた取り組みが必要ではないかと思いますが、取り組み方についてお伺いいたします。

3点目は、鳥獣被害対策についてであります。

ふえすぎた野生動物や生態系に深刻な被害を改善するため、鳥獣保護法の一部を改正する法律が施行されました。猟友会など捕獲の担い手不足も深刻化していると聞きます。そこで、捕獲の担い手などを含めた鳥獣被害対策をどのように考えているのかお伺いいたします。

9番目は、建設行政について3点お尋ねいたします。

1点目は、堤防未整備区間の整備についてであります。

久慈川など堤防未整備区間の築堤については、県への重点要望事項でありながら、なかなか進展が見られません。最近の集中豪雨など、地域住民は不安を抱えており、早期の整備が望まれています。進捗状況についてお伺いいたします。

2点目は、久慈川左岸の市道についてであります。

久慈川左岸の市道の水面上部の路面に段差があり、夜間など、通行上危険をはらんでいます。解消策をどのように考えているのかお伺いいたします。

3点目は、雨水排水対策についてであります。

最近、異常気象の影響など、ゲリラ豪雨が全国的に多発しています。そこで、雨水対策の強化が望まれています。現在、川貫地区に雨水ポンプ場を整備中ですが、市内にはまだ多くの浸水区域があります。今後の雨水ポンプ場の整備計画についてお伺いいたします。

最後は、教育行政について3点お尋ねいたします。

1点目は、小中学校のトイレについてであります。

現在、家庭では温水式洗浄トイレが主流になっています。学校でのトイレができない子もいると聞きます。そこで、小中学校の洋式トイレの現状について、また、今後、ウォシュレットなど、トイレの整備の考え方についてお伺いいたします。

2点目は、類似公民館の改修についてであります。

類似公民館の改修について、特に老朽化した施設の改修には、地元住民の負担を強いられています。そこで、地元住民の負担軽減のためにも補助を拡大すべきと思いますが、考え方についてお伺いいたします。

3点目は、総合運動公園についてであります。

現在当市では、総合運動公園基本構想に取り組んでいます。以前から、県の施設がない当地域には、ドーム型の催事場を望む声もあります。ドーム球場について、県との協議をすべきと思いますが、考え方についてお伺いいたします。

終わりに、東日本大震災発生から不眠不休で復旧・復興に尽力されてきた市長をはじめとする職員に対し、心から敬意と感謝を申し上げ、登壇しての私の質問を終わります。

○議長（八重櫻友夫君） 遠藤市長。

〔市長遠藤譲一君登壇〕

○市長（遠藤譲一君） 公明党、山口健一議員のご質問にお答えをいたします。

最初に、地方創生の推進についてお答えをいたします。

昨日の清風会代表、小柳議員ほかにお答えいたしましたとおり、地方創生の推進につきましては、総合計画策定とあわせまして、人口ビジョン及び総合戦略の策定を一体的に進めているところであります。

策定に当たりましては、市民参画による市民会議の開催、幅広い分野の方々に参画をいただく総合戦略策定協議会の開催、市民の参画を促すための研修会を開催するなど、市民の皆様との対話を重視しながら、鋭意取り組んでいるところであります。

次に、震災復興事業の地元負担についてお答えをいたします。

当市への影響につきましては、昨日の清風会代表、小柳議員ほかにお答えいたしましたとおり、平成28年度以降5年間で市が行う復興事業においては、現在のところ約6,000万円の負担が新たに発生するものと見込んでおります。

また、国の直轄事業である久慈港湾口防波堤の整備や県の事業である河川堤防のかさ上げなどの事業のおくれが懸念されることから、岩手県市長会や岩手県沿岸市町村復興期成同盟会などと連携しながら、復興事業におくれが生じないよう、全面的な財政支援措置の継続を国に対し強く要望しているところであります。

次に、仮設住宅についてお答えをいたします。

遠野市では、沿岸部からの避難者の要望を踏まえ、市営住宅として活用できるよう、市営住宅の基準に合った補強などの対策を講じ、恒久的な住宅へ転換する予定であると伺っているところであります。

現在、当市の被災者で応急仮設住宅に入居している世帯の方々からは要望がないことから、応急仮設住宅の市営住宅への活用は考えていないところであります。

また、応急仮設住宅としての役割を終えた後の建物の活用方法につきましては、今後検討してまいります。

次に、交通弱者対策についてお答えをいたします。

市内には、鉄道やバスなど公共交通の恩恵の少ない地域もあり、そこにお住まいの方々の交通の足の確保の必要性につきましては、十分認識しているところであります。今年度、そのような課題に対応するため、宇部地区においてデマンドタクシーの実証運行を行う予定としており、その検証結果などを踏まえて、市内の公共交通空白地域の対策について検討してまいりたいと考えております。

なお、山形町における公共交通のあり方につきましては、デマンドタクシーのほか、自治体みずからが運送を行う市町村運営有償運送や、NPO法人等が自家用自動車を用いて有償運送を行うことができる公共交通空白地有償運送など、地域住民のニーズや意向を踏まえた利便性の高い生活交通の確保に向けて検討してまいります。

次に、交通安全対策についてお答えをいたします。

本年6月1日から、改正道路交通法が施行され、自転車による危険行為を3年以内に2回以上繰り返した運転者に対し、講習の受講が義務づけられるとともに、受講命令に従わない場合、5万円以下の罰金が科せられることとなっております。

これに伴い、久慈市及び久慈市交通安全対策協議会では、行政連絡区長を通じて、周知文書の全戸回覧を6月15日付で実施したほか、市ホームページへの情報掲載等により周知を図ったところであります。

今後におきましても、引き続き周知の徹底に取り組んでまいります。

次に、生活困窮者支援についてお答えをいたします。

生活困窮者自立支援法は、生活困窮者に対する自立支援強化を図る目的で制定され、本年4月1日から施行されているものであり、相談対応や自立に向けたプラン作成などの支援を行う自立相談支援事業、離職者などに対する居住費用の支援を行う住居確保給付金の支給などの事業を実施することとされております。

当市におきましては、自立相談支援事業について、4月1日から久慈市社会福祉協議会に業務を委託して

実施しているところであります。

5月末までに、27人から生活や就労などさまざまな相談を受けており、生活困窮者の状況に応じて就労の支援をはじめ、住居確保給付金の支給や生活福祉資金の貸し付けなど、各種支援制度の紹介や申し込みなどの支援を実施しているところであります。

次に、認知症対策についてお答えをいたします。

まず、認知症の早期発見についてであります。健康診断の案内時に認知機能にかかわる基本チェックリストを配布し、個別に認知項目の把握を行うとともに、必要に応じて訪問調査を行うほか、平成27年度内に満75歳と満80歳になられる方に対して実態調査を実施し、早期発見・早期対応に努めているところであります。

次に、認知症予防の取り組みについてであります。認知症サポーター養成講座や出前講座などを開催して、運動や日常生活の改善ポイントなど、認知症の予防に対する意識啓発に努めるとともに、介護予防事業や地域サロンへの積極的な参加を促しております。

今後におきましては、認知症初期集中支援チームを設置して、認知症の方やその家族の支援体制づくりを行うとともに、認知症予防及び地域の見守りによる早期発見・支援体制の整備に鋭意取り組んでまいります。

次に、産業行政についてお答えをいたします。

まず、大川目地区ほ場整備事業の地区内にある公園用地の管理についてであります。当該公園用地は、平成22年度に市が取得し、平成23年度から25年度にかけて、大川目まちづくり協議会の協力を得て一部植栽などを実施したところであります。現在は、外構整備を実施していないことなどから、公園としての位置づけがないまま市が管理しているところであり、外部委託による管理については、今後の整備手法も含めて検討してまいります。

また、公園内のトイレ設置につきましては、隣接地の農業共同利用施設内にトイレが設置されていることから、現在、公園用地内への整備計画は持ち合わせていないところであります。

次に、大川目地区ほ場内の耕作道の舗装改良についてであります。当該路線は、作業用道路として整備されたものであり、現状においてその機能を果たしているものと認識しております。

また、路面損傷につきましては、多面的機能支払交付金事業などを活用し、適正に管理されるよう、管理

者である久慈市土地改良区と協力して対応してまいります。

次に、集落営農の推進についてであります。大川目地区及び宇部川地区のほ場整備地区において、地域の中心経営体として設立された農事組合法人と営農組合が連携し集落営農が実践されているところであります。

他の地域におけるほ場整備とあわせた集落営農推進の考え方につきましては、まずは集落において取り組みが実践された後、当該集落における営農計画に基づき、ほ場整備の必要性があると判断された場合に、ほ場整備に取り組まれるべきものであると考えております。

市といたしましては、今後におきましても経営再開マスタープランに係る集落座談会などで意見交換を行いながら、集落営農の取り組みが図られるよう誘導してまいりたいと考えております。

次に、鳥獣被害対策についてであります。農林水産業等に対する鳥獣被害は、全国的に増加傾向となっており、その要因の一つとして、狩猟者の減少・高齢化が上げられておりますことから、捕獲の担い手の育成及び確保対策は全国的な課題であると捉えております。

このことから、国では、各市町村への鳥獣被害対策実施隊の設置を推進し、実施隊員に対する猟銃所持許可の更新などに係る技能講習の免除や、狩猟税の軽減などの優遇措置を設けることにより、捕獲の担い手の育成と新たな人材の確保策を講じているところであります。

市といたしましては、捕獲の担い手の育成及び確保を図るため、平成25年度に久慈地方猟友会会員45名を隊員とする久慈市鳥獣被害対策実施隊を設置したところであり、今後におきましても、久慈地方猟友会など関係団体と連携しながら、実施隊の維持及び拡大を図り、鳥獣被害対策に取り組んでまいります。

最後に、建設行政についてお答えをいたします。

まず、久慈川等堤防未整備区間の整備についてであります。平成26年度までに、久慈川の田屋町側の堤防かさ上げ及び小屋畑川の長内川合流部の左岸堤防かさ上げについては完成しており、現在、長内川の川崎町側の築堤について、平成29年度の完成を目指し、鋭意工事を進めているところであると、河川管理者であ

る県北広域振興局から伺っているところであります。

また、久慈川の大成橋上流右岸、長内川の小久慈橋下流右岸及び幸橋下流右岸につきましても、土地利用状況の変化などを注視しながら、緊急性、重要性を総合的に勘案し、事業化の時期の検討を進めていくと伺っているところであり、市といたしましては、これらの箇所につきまして早期事業化が図られるよう、引き続き県に対して強く要望してまいります。

次に、久慈川左岸の市道についてであります。市道大橋大成橋線には4基の水門があり、水門上下流部路面に多少の段差があることは認識しております。

今後は、段差解消のためすりつけなどの対策を実施してまいります。

最後に、雨水災害対策についてであります。当市の雨水災害対策として、これまで門前ポンプ場、中央ポンプ場、西の沢ポンプ場、川崎町東ポンプ場の4カ所の雨水排水ポンプ場整備のほか、雨水排水路約4,300メートルを整備し、早期に浸水被害が解消できるよう努めているところであります。

今後におきましても、下水道雨水排水計画に基づき、浸水被害歴や財政状況を勘案しながら整備に努めてまいります。

以上で、公明党、山口健一議員に対する私からの答弁を終わります。

○議長（八重櫻友夫君） 加藤教育長。

[教育長加藤春男君登壇]

○教育長（加藤春男君） 公明党、山口健一議員の教育行政についてのご質問にお答えをいたします。

初めに、小中学校のトイレ整備についてであります。洋式トイレの現状は、小学校はポータブル式の1校を含め15校全校、中学校は8校中7校に洋式トイレを設置しているところであります。

今後の整備につきましては、国の交付金を活用しながら、水洗化や修繕のタイミングなどを捉え、整備してまいりたいと考えております。

次に、類似公民館の改修についてであります。現在、市内には99館の公民館類似施設があり、その約半数の施設が築30年以上を経過し、その維持管理に係る経費が年々増加していると伺っているところであります。

これら公民館類似施設等の改修については、社会教育事業及び公民館類似施設等補助金交付要綱と補助金

交付規則に基づき、その改修内容に応じて補助金を交付しているところであり、昨年度においては、17館、230万円の補助金を交付したところであります。

また、その補助率についてであります。平成23年度には建設費補助の上限額を200万円から400万円へ、平成26年度には備品購入の補助率を3分の1から2分の1へ拡充したところであり、今後におきましても、補助内容等について引き続き研究してまいります。

最後に、総合運動公園についてであります。ドーム型の野球場について、今回の基本構想策定の中で検討すべきのご提言であります。構想策定においては、昨日の政和会代表、濱欠議員にお答えいたしましたとおり、久慈市に見合った施設整備に向け、基本的な構想をまとめようとするものであります。

ドーム型野球場の導入については、建設費や維持管理費に多額の経費を要すると伺っており、現在のところ、導入は難しいものと考えております。

以上で、公明党、山口健一議員に対する私からの答弁を終わります。

**○議長（八重櫻友夫君）** 再質問を許します。9番山口健一君。

**○9番（山口健一君）** 若干時間がなくて、前後するかもしれませんが、質問させていただきます。

まず、教育行政についてでありますけれども、類似公民館の改修ということで、23年から200万から400万に上積みしたということなんです。実際的には、今ちょっと大きい修繕すると何十万とかかった場合に、3分の1、たしか補助だと思えますが、町内でも、その捻出のためには町内会から会費を頂戴してるわけです。また、ある町民にとっては、公の施設を使ってる場所もあるわけです。

そういった場合によっては、市民にとっては不公平感があるのかなというふうに思います。そういう意味では、もう少し補助の拡大を今後検討すべきではないのかなと思いますけども、その辺について伺いたします。

**○議長（八重櫻友夫君）** 澤里教育部長。

**○教育部長（澤里充男君）** 類似公民館等に関する補助金の関係でございます。

議員おっしゃいますとおり、現在、私どもの交付要綱では、改修費については3分の1の補助ということで、上限を50万円ということで交付をしているところ

でございます。

交付状況でございますが、去年あたりも17館で230万。その中には備品もあつたり、それから改修費もあつたりということでございますが、例えば上限は変えないとしても、補助率を上げていくというような考え方も当然あると思っております。

ただ、現在のところ、他の補助金とのバランスとか、そういったものもございますので、そういった部分について、財政状況等も踏まえながら、いろいろと研究してまいりたいというふうに考えております。

**○議長（八重櫻友夫君）** 9番山口健一君。

**○9番（山口健一君）** ぜひ、例えば古くなってペンキを塗りかえるとかといった場合に、地域だけではなくないので、特別に町民から、私らの公民館の場合には特別徴収してやると。よその地域で公の施設を使ってる場合には使用料だけで済むという、そういった不公平もあるわけですから、その辺はきちっと精査して、できるような体制を整えていただければと思います。

時間ないので、次に交通弱者対策について。今市長からも答弁があつたように、今後、デマンドタクシーとか、あとはまた乗り合いタクシーもそういったNPOなどを使った、今後検討するということですので、ぜひそういった先進事例もあるわけですので、先進事例によりますと、会員を募って、会費を年2,000円程度払って、あとは1回乗ると500円程度で、そういったNPOが運営している。そういった場合に、市のほうから、例えばそういったNPOに8人乗りの車でも譲与するとかという事例もあるようです。

そういったものをしっかり研究して、例えば山形の人ですと、ここからしらかば号で行っても、山形で降りた場合に、霜畑まであつという間に何もなくて歩いて行くというふうな状況もあるようです。そういった状況をしっかりと見据えて、今後検討して、早目にできればいいかなと思いますので、その辺についても伺いたします。

**○議長（八重櫻友夫君）** 遠藤市長。

**○市長（遠藤譲一君）** 過疎が進み、高齢化が進み、若い方が近くからいなくなると、交通手段の確保が本当に生きていく上で大きな課題になっておまして、久慈市にとっても本当に、この問題で困ってる方がたくさんいらっしゃるの十分認知しております。

久慈市の負担でというふうになりますと、今でも市民バスでもかなりの負担をしながらですが、それでもご批判をいただいている状況で、ただそれも、市民バスも一部の路線しか走らせることができないということでございまして、今議員からもNPO法人等のお話もありました。地域の皆様のご協力もいただかないと、なかなかこれが解決できないなと思っております。

全国的にはさまざまな方法で試行しながら、工夫して動かしているところがたくさんありますので、そういったところも勉強しながらですが、それぞれの地域、状況が違いますので、皆様、地域ごとにそういったご相談もさせていただきたいと思っております。

資金の一部ということになれば、市のほうの対応のしようがいろいろ出ますが、100%となりますと、またこれは苦しくなるということがございますので、この問題についても、市民の皆様と一緒に取り組んでいかなければいけないというふうになっております。大きな課題だと思っております。

○議長（八重櫻友夫君） 9番山口健一君。

○9番（山口健一君） ありがとうございます。7番の認知症対策になるわけですが、今いろいろな施策を行っているようですが、最近では若年性認知症という方も結構、急に認知症になるという方もあるようです。そういった場合には、どうしても早期発見といったものが大事になってくるとは思いますけれども、久慈市でも特定健診、また人間ドック等も補助しているわけですが、なかなか受診率が向上しないというようなあります。それは、住民の周知の仕方も今後検討していくべきではないかなと思いますけれども、その辺についてお伺いいたします。

○議長（八重櫻友夫君） 和野生活福祉部長。

○生活福祉部長（和野一彦君） 認知症の早期発見・早期治療ということでございますが、現在、高齢者を中心に認知症の早期発見ということで取り組んでおりますけれども、今後におきましては、若年層の認知の方もいっしょやるということで、その対応も今後検討していきたいというふうに考えております。

以上です。

○議長（八重櫻友夫君） 9番山口健一君。

○9番（山口健一君） 8番の大川目ほ場の公園についてでありますけれども、現在、農政課が多分管理しているかと思うんですが、年1回、幾らか草刈りしてる

わけですが、まだ全然殺伐としている。以前、大川目で不老泉を、市のほうから委託して今清掃しているわけですが、これほとんど月1万円程度でやっているわけですが、私どもまちづくり協議会が受けて、老人クラブの協力を得てやっているわけです。

以前は、私も市で管理したら本当に汚くて、今は水洗化もしていただいてきれいになってるわけですが、市の観光場所としてのそれがあったわけで、今はきれいに、私も行ってやりますけども、そういった部分で、多少お金があっても、市長が言ってる、市民等が皆さんができることは協力してやるということが非常に大事だと思います。

その意味で今、公園についても、早目に地域の方々に指定管理してしっかりやってもらおうと、そういう面が大事ではないかなと思います。

それともう一つ、今トイレについても話があったんです。ライスセンターのところにトイレは実際あるわけですが、私もそのトイレを使えるかなと思うんですが、常時鍵がかかって、なかなか使えない。

今、ほ場整備して、男性の方は失礼な話ですが、どこでもというわけじゃないですが、女性の方が農作業する。今広くなって、そういった場所でなかなかできない状況もあります。公園がせつかくあるわけですから、そういったライスセンターのほうを使えるようにするとか、もしかすれば仮設のトイレでも設置できないのか、その辺についてお伺いいたします。

○議長（八重櫻友夫君） 浅水産業経済部長。

○産業経済部長（浅水泰彦君） ただいま、大川目ほ場整備内の公園の整備というふうなことでお話ございました。この公園につきましては、創設用地ということで、公園用地として位置づけて市が取得したということでございます。

事業が進捗している過程の中では、一定程度の整備を県のほうでやっていただきたいというふうなことで要望を申し上げたり、ある程度のものはできるというふうなことで進んできたという経過があったわけなんです。その後、ほ場整備全体の事業の中で、想定していなかった埋文調査の費用が相当にかさんだというふうなこともあって、なかなかそういった整備費用が捻出できなくなったということで今に至っているということでございます。

あと一方、ライスセンター等が整備されている用地

につきましても、地域の方で農家レストランをやりたいとか、そういったいろいろな利用の検討がなされているわけですが、いずれにいたしましても、その公園用地、それからもう一方の用地含めて、有効に活用できるように進めてまいりたいというふうな思いは持っております。

それからもう一点、トイレにつきましては、ご指摘のとおり、通常は旋転をしておの管理とさせていただきます。ほ場内の大半の面積を一定の担い手の方々、少数になるわけですが、そういった方々がほとんどのほ場の大半を耕作しているということで、そういった方々はみずから鍵を持って管理しているということなんです、それ以外の小規模な経営の方々も当然に利用できるエリアとなっておりますので、その鍵をどのようにして管理していけばいいかということについては相談をしてみたいというふうにご考えております。

以上でございます。

○議長（八重櫻友夫君） 9番山口健一君。

○9番（山口健一君） トイレはそういった、せっかくあるんですから、できれば使える方向で検討していただきたいというふうに思います。

それから、時間がないので、先ほど農道の損傷という、路面だけじゃなくて結構路肩も傷んでくる。これは多分交通量が、畑田農道がきちっとできてますので、そういったのがあって、かなりの交通量があるということで、路面を削ったやつで1回やったんですが、交通量が多いと路面がすぐ悪くなる。恒久的なものが必要かなと思いますので、そういったものも検討を今後していただきたいなと思います。

それから、鳥獣被害対策についてでありますけれども、先ほど猟友会は45名というふうに今答弁がありましたけれども、実際は高齢化によってなかなか招集があったときに出る方も少ないような話を聞いています。結構年配になると、目とか体もあるようですので、若い方を何とかして育てていかなければならないと思いますが、その辺の取り組み方についてお伺いいたします。

○議長（八重櫻友夫君） 中居副市長。

○副市長（中居正剛君） 今ご指摘いただきました、若い方々がなかなか入ってこないという問題があると思います。これにかかわって、捕獲の担い手育成を

確保するために、平成25年度に組織化を図ったところでございまして、その隊員の皆様方と、今のご指摘いただいた部分についても相談しながら、どのような仕組みを考えていけばいいのか相談してやっていきたいと思っております。

以上です。

○議長（八重櫻友夫君） 浅水産業経済部長。

○産業経済部長（浅水泰彦君） 大川目ほ場整備内の耕作道の路肩部分についても損傷が見られるというお話でございます。

路面につきましては、議員もお話がありましたとおり、以前に若干の整備をした経緯があるわけですが、そのことによって、畑田農道からの非常に、それから大川目のほ場内の舗装された、今は市道となっておりますが、従前の農道からのちょうど通過点になっているというふうなことで、非常に交通量が多いというふうなことで、その分損傷も多くなっている状況がございます。

これをなかなか抜本的にということになりますと、農作業の部分でかなり影響が出てくるのかなというふうなこともありまして、現状の耕作道という位置づけの中では、なかなか舗装という部分については、どうなのかなというふうに思っている部分もありますが、いずれ、議員からご指摘の路肩という部分もありましたので、管理について管理者である土地改良区、あるいは県等とも相談してまいりたいと思っております。

以上でございます。

○議長（八重櫻友夫君） 再質問を打ち切ります。

次に、社会民主党、梶谷武由君。

〔社会民主党梶谷武由君登壇〕

○1番（梶谷武由君） 社会民主党の梶谷武由です。

市政の当面する諸課題について質問をいたします。

最初の質問は、マイナンバー制度についての質問です。

正式名称は、行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律となっておりますが、これは、国民一人ひとりに12桁の個人番号を割り当て、国や地方自治体が納税と社会保障に関する情報を一括管理できるようにする制度で、来年1月から始まり、将来は預金口座や健康保険などの医療分野にも拡大し、企業の利用も義務づけられることになっております。

これまでは行政サービスごとに別々の番号が個人に

割り当てられていたものが、マイナンバーに一本化されることにより、事務の効率化が図られ、脱税や年金の不正受給が防げるとの狙いようですが、多くの疑問や不安が解消されないまま実施されようとしています。政府がどれほど安全を強調しても、適用範囲が拡大すれば、その分だけ情報が漏えいする危険が増えていくことは明らかであると思います。

先月、大量の年金情報が流出した事件がありました。情報を盗み出そうと、相手を狙ってシステムにアクセスしたとの報道があったわけですが、マイナンバー制度における個人情報、個人のプライバシーに大きくかかわるもので、情報の流出は絶対防がなければならぬわけですが、セキュリティー対策を行っても破られる可能性があるとの報道もあります。

久慈市においても可能な限りの対策が必要と考えますが、情報の保護対策をどのように行うか。また、制度の内容について、国民の理解が少ないとの報道もありますが、市民への周知はどのように行われるのかお伺いいたします。

次の質問は、低炭素社会の実現に向けた取り組みについての質問です。

環境省が「低炭素・循環・自然共生」地域創生実現プランを策定するためのモデル地域として、久慈地域4市町村を指定しました。全国で17カ所指定されましたが、東北では久慈地域のみです。

この事業は、低炭素エネルギーの導入や経済好循環、地域活性化に結びつけることを目的とし、久慈地域では、この事業に応募する際に、今後5年間での取り組み内容として、これからの中心市街地、中山間地集落の姿と、それらを結ぶ交通機能のあり方、再生エネルギー・省エネルギーによるエコエネルギーエリアの形成、みちのく潮風トレイルを活用した広域レクリエーションと観光活動を取り上げています。

この事業目標を達成するために、どのようにして取り組んでいこうとしているのか。また、指定は広域4市町村となっており、4市町村で協力し合って行うことが大事だと考えます。各事業の分担をどのように行おうとしているか、その考え方を伺いいたします。

次に、愛鳥の森の整備についてです。

高館市民の森は、市民の憩いの場として多くの市民が利用しています。散策路の砂利敷きや転落防止用の柵などの整備、樹木名などの表示、あるいは森林内の

低木や下草などの刈り払いも行われ、きれいになったと評価する声がある一方、周辺の山に比べ、愛鳥の森には小鳥が少なくなったという声も聞きます。

小鳥の飛来や生息状況の現状はどのようになっているか。また、小鳥が集まるような整備の仕方が求められると思いますが、愛鳥の森の整備のあり方について伺いいたします。

次は、橋梁の補修計画についての質問です。

全国的に橋梁の老朽化の進行が大きな問題となって、橋梁の点検や補修計画が策定されていると思いますが、橋梁の点検状況とその結果について。2点目は、点検の結果、早急に補修が必要な橋梁数とその補修計画について。3点目は、さびが生じている箇所は、塗装などを行うことによって橋梁の寿命を延ばすことができると考えますが、そのような箇所の整備計画について伺いいたします。

次は、小学校の遊具の整備についての質問です。

小学校の遊具は、子供たちの運動能力や身体能力を向上させるためになくてはならないものです。また、子供たちが遊具を使って遊ぶことで、運動能力や身体能力の向上のほかに、子供たち同士の他人とのかわり方など社会性を身につけることもでき、大変重要なものと考えます。

小学校の低学年を受け持つ先生や保護者の方から、毎年のように遊具設置を求める声が多く聞かれます。久慈小学校が改築と同時に校庭の整備も行われ、雨上がりの後もすぐ使用できて、すごくよくなった。また、遊具も多数設置され、満足しているという声も届いております。長い間要望したことがようやく実現できたという思いでもあります。久慈小学校の整備を皮切りに、他の学校にもできるだけ早く遊具の設置が必要と考えます。

一昨年の議会でこの問題を取り上げたとき、学校や保護者の要望を聞きながら整備を行っていきたいと答えております。どのような遊具を希望しているかを調査し、整備計画をつくったと思いますが、学校からの要望内容と整備計画について伺いいたします。

次に、久慈市歴史民俗資料室の常時開放についての質問です。

歴史民俗資料室を常時一般開放するには、図書館法などの定めによる施設整備が必要とのことですが、整備の進捗状況と常時開放できるまでの今後の見通しに

ついて。

また、資料を集めるに当たっては、分野ごとに年代や地域など、各方面にわたって広く集めるようにしていると思いますが、資料収集や整理等、課題があれば、その内容についてお伺いいたします。

常時開放を行う場合、施設の管理のほかに、資料の説明などが必要であり、さまざまな分野の説明となると、市の職員の配置だけだと手が回らないのではないかと思います。歴史や民俗資料などに詳しい知識を持った人たちの協力が不可欠とも思います。今のうちから、そのような人たちとの協力関係をつくったり、養成講座の開催などの企画も必要ではないかと思いますが、どのように考えているかお伺いいたします。

最後に、選挙管理委員会委員長に質問をいたします。

選挙の投票率の問題についてですが、ここ数年、選挙の投票率が低下傾向にあります。投票率の低下が大きな課題ではないかと思いますが、選挙管理委員会としてどのように認識しているかお伺いいたします。

7月には市議会議員選挙も予定されており、投票率向上に向けた取り組みも必要と考えますが、取り組みの予定があれば、その内容についてお伺いいたします。

以上で、登壇しての質問を終わります。

○議長（八重櫻友夫君） 遠藤市長。

〔市長遠藤謙一君登壇〕

○市長（遠藤謙一君） 社会民主党、梶谷武由議員のご質問にお答えをいたします。

最初に、マイナンバー制度についてお答えをいたします。

まず、情報の保護対策についてであります。個人番号を含む個人情報、いわゆる特定個人情報は、手厚い保護が必要であり、その流出については、万が一にもあってはならないものと認識いたしております。

当市における個人情報の取り扱いにつきましては、これまでも細心の注意を払っているところでありますが、マイナンバー制度の運用に際しましては、個人情報等の安全管理に関する基本方針の策定や、情報セキュリティ研修を通じて、職員の意識の向上を図るとともに、将来的には個人情報を取り扱う事務室内への入退室の制限や、セキュリティ対策機器の導入についても検討してまいります。

次に、マイナンバー制度の導入に向けた市民への周知についてであります。これまでは国よるテレビC

M、新聞広告及びホームページ等での周知が中心でありましたが、市におきましても、本年10月の通知カード配布に向け、基本的な内容についてのわかりやすいパンフレットを9月を目途に全戸配布する予定としております。

また、あわせて、市広報などによる周知を重ねて実施していくこととしております。

なお、企業向けの周知につきましては、税務署や県などの関係機関と共同した説明会を開催予定であります。さらには市民向け説明会の開催についても行ってまいります。

次に、低炭素社会の実現に向けた取り組みについてお答えをいたします。

本事業は、昨日の清風会代表、小柳議員にお答えいたしましたとおり、エネルギーを中心とした低炭素化をはじめ、人・自然資源などの地域の未利用資源を活用した新たな事業を創出し、人口減少克服や地方創生という構造的な課題に対して効果的な施策を導き出すためのプラン策定事業であります。

本事業の取り組みについてであります。再生可能エネルギーの利用可能量調査や住民意向などの基礎調査などを実施し、学識経験者や専門家をはじめ、企業や地域住民などで構成された協議会を設置した上で、同協議会においてプランの検討を行い、計画を策定するものであります。

また、4市町村の分担についてであります。本事業は共通した課題を持つ久慈地域が連携・協働し、一つの行政区では解決できない課題に意欲的に取り組むために、4市町村全体で協議しながら計画を策定するものであり、市町村ごとの特段の分担を定めるものではありません。

次に、愛鳥の森の整備についてお答えをいたします。

市民の保健、休養及び森林に対する知識の普及向上に資するため整備いたしました高館市民の森は、愛鳥の森エリアのほか、テーマごとのエリアを有しており、昨年度は、「鑑賞の森」と「健康の森」エリアにおいて、芝生の拡張及び木製遊具設置の環境整備事業を実施したところであります。

愛鳥の森につきましては、野鳥のすみかとしてバードウォッチングの場として位置づけているところであり、巣箱の設置や最低限の刈り払いによる野鳥の生息環境は保たれているものと認識しております。



また、愛鳥の森整備に当たりましては、エリアのテーマに沿った環境整備が利用者の利便性と快適性の向上につながるものと考えているところであり、今後とも野鳥の生息環境に配慮した整備に努めてまいります。

最後に、橋梁の補修計画についてお答えをいたします。

まず、橋梁の点検状況とその結果についてですが、久慈市では、平成21年度に市で管理する309の橋梁について点検を実施し、平成22年度に橋梁長寿命化修繕計画を策定、修繕が必要な橋梁を決定したところであります。

次に、補修を早急に行う必要のある橋梁数とその整備計画についてですが、平成21年度の点検結果を踏まえて策定された橋梁長寿命化修繕計画では、早急に修繕が必要な橋梁は45橋あり、健全度や重要度などを総合的に判断しながら、計画的に補修を進めているところであります。

次に、塗装等の必要な橋梁数と整備計画についてですが、点検を実施した鋼橋54橋のうち、9割以上の道路橋において塗装補修の必要性が確認されたことから、塗装の劣化状況や重要性などを評価しながら、計画的な補修を進めてまいります。

また、平成26年7月には、道路構造物の老朽化対策として道路法施行規則が一部改正され、道路橋の最新の状態を把握するための定期点検が義務づけられたところであり、当市におきましても適切な維持管理に努めているところであります。

以上で、社会民主党、梶谷武由議員に対する私からの答弁を終わります。

○議長（八重櫻友夫君） 加藤教育長。

〔教育長加藤春男君登壇〕

○教育長（加藤春男君） 社会民主党、梶谷武由議員のご質問にお答えをいたします。

最初に、小学校の遊具の整備計画についてお答えをいたします。

遊具の整備に係る学校の要望内容につきましては、小学校1校から、バランス感覚を養うブランコ、腕の力を養う登り棒の設置要望があります。

また、ふぐあいが確認された遊具の修繕要望につきましては、順次対応をしているところであります。

今後の整備計画につきましては、体育の授業で使用

するものや学校から要望のあった遊具の計画的な整備に努め、児童の体力や運動能力の育成を図ってまいります。

次に、久慈市歴史民俗資料室の常時開放についてのご質問にお答えをいたします。

久慈市歴史民俗資料室につきましては、現在、予約制により見学に対応しているところであります。常時開館に向けた施設の整備につきましては、法制度上、防災設備等の設備が必要であり、多額の費用を要することから、実現には至っていないところであります。

今後の見通しについてですが、市全体の施設整備計画との調整を図りながら、久慈市の郷土資料の活用が図られるよう、今後とも関係部局と協議を継続してまいります。

次に、資料の収集や整理等についてですが、市民の方から寄贈いただいた資料については、随時、整理作業を実施しており、適正な保管に努めているところであります。

次に、歴史や民俗資料等に詳しい方たちの協力についてですが、歴史民俗資料室の常時開館について一定の目途が立った段階で、ボランティアガイドの養成などについて検討をしております。

以上で、社会民主党、梶谷武由議員に対する私からの答弁を終わります。

○議長（八重櫻友夫君） 大沢選挙管理委員会委員長。

〔選挙管理委員会委員長大沢寿一君登壇〕

○選挙管理委員会委員長（大沢寿一君） 社会民主党、梶谷武由議員の選挙の投票率向上に向けた取り組みについてのご質問にお答えいたします。

最初に、投票率低下の認識についてですが、昨年執行された衆議院議員総選挙の久慈市の投票率は、小選挙区選出議員選挙で申し上げますと57.40%であり、全国平均を4.74ポイント上回ったところであります。平成24年執行の衆議院議員総選挙の久慈市の投票率は59.32%であったことから、全国的な投票率の低下傾向と同様であり、有権者の選挙に対する投票意識が低下してきていると思料しているところであります。

次に、投票率向上に向けた取り組みについてですが、選挙管理委員会におきましては、防災行政無線や公用車による広報、土風館及び市日での街頭啓発、広報くじ及び市ホームページでの周知、啓発ポスター

の掲示、大型スーパーでの放送、選挙公報の配布など、さまざまな手段を使い、投票を呼びかけ、効率的な選挙啓発活動を実施するとともに、期日前投票及び不在者投票制度をさらに周知し、投票しやすい環境を整えてまいりたいと考えております。

以上で、社会民主党、梶谷武由議員に対する私からの答弁を終わります。

○議長（八重櫻友夫君） 再質問を許します。1番梶谷武由君。

○1番（梶谷武由君） 残されている時間が少ないので、全ての項目にわたって質問できないかもしれませんが、マイナンバーについてはたくさんの課題があると思って、これは後に回していきたいと思っております。

低炭素社会における取り組みの部分についてですが、市町村ごとの分担を行わないでというところのようですが、さまざまな課題、例えば再生可能エネルギー一つとってみても、さまざまな分野、久慈でありますと木質系とか、あるいは風力、波力さまざまあるわけですが、どのようなものに的を絞っていかようとしているのか、あるいはそういう形でなく、また考えているのか。

それから、交通の部分についても、中山間地との連携、連絡というところ等も入っているようですし、電気自動車のことも計画等の中に見えたような気もしますが、その辺について、まずお伺いをしたいと思います。

○議長（八重櫻友夫君） 和野生活福祉部長。

○生活福祉部長（和野一彦君） 低炭素社会の実現に向けた取り組みということでございますが、エネルギーの関係でございますけれども、久慈市あるいは野田村におきましては木質バイオマス、洋野町におきましては洋上の風力発電とかという希望とございますか、そういうふうな目標は持っているようでございますが、これにつきましても協議会の中で議論がされるものでございまして、あす第1回の協議会が開催される予定でございます。

また、交通関係でございます。この地域、広いエリアでございます。そこで、農村あるいは都市との交流ということでございますが、これにつきましても低炭素というキーワードで、電気エネルギー、これを利用した交通体系の構築というものを目指して、一つの考えとしてはありますが、これにつきましても協議会の

中において議論されるべきというものでございます。

以上でございます。

○議長（八重櫻友夫君） 1番梶谷武由君。

○1番（梶谷武由君） この部分もまだありますが、次に愛鳥の森ですが、現在でもいいというような判断をしている模様ですけれども、愛鳥の森での生息状況、小鳥の飛来とか、そういう生息状況について調査しているのかどうか。調査しているのであれば、どの程度確認をされているのかお伺いをしたいと思います。

あとそれから、整備に当たって、例えば日本野鳥の会とか、小鳥等に詳しい方等からの、そういう人たちの意見も聴きながら行うべきだと思うんですが、そのような声を聴いた上での整備を進めているということなのか、そこについてもお伺いをします。

○議長（八重櫻友夫君） 浅水産業経済部長。

○産業経済部長（浅水泰彦君） 愛鳥の森の愛鳥といいますが、鳥類の生息状況の調査ということでございますが、生息数とか、そういったものについての調査は行っていないところでございますので、ご了承いただきたいと思います。

それからもう一点、バードウォッチング的な、そういったイベント等の部分でございますが、現在、この愛鳥の森を含めた高館市民の森につきましては、指定管理者への指定ということで管理を行っておりますが、指定管理者のほうで、そういったイベント的なものがありますとか、あるいは管理の部分で工夫とございますか、巣箱を設置するとか、そういう環境の保全とか、向上とかという部分についても意を用いていただいているところでございます。

以上でございます。

○議長（八重櫻友夫君） 1番梶谷武由君。

○1番（梶谷武由君） 今の部分で、そういう野鳥の会とか、そういうバードウォッチングなんかを楽しむ、そういう人たちの意見を聴きながら整備しているかというお尋ねだったわけですが、どうでしょうか。

○議長（八重櫻友夫君） 浅水産業経済部長。

○産業経済部長（浅水泰彦君） 失礼いたしました。先ほど指定管理者に触れたわけなんです、そういった部分については、指定管理者のほうでそういったノウハウを持った方々、あるいは趣味とか、そういった範囲の方々を巻き込んだ形でのイベントなりということで取り組んでいただくということで、指定管理の協

定書等の部分にもあらわれているものでございます。

以上でございます。

○議長（八重櫻友夫君） 1番梶谷武由君。

○1番（梶谷武由君） まずは、そういう専門家たちの意見を聴きながら、ぜひ整備を進めていただきたいと思います。

次に、橋梁の整備の部分で、特に危険な場所、安全が確保されないような橋梁についての整備というのは、すぐ行うという予定になっているかどうか。

あともう一つは、急いで整備をする必要はないけれども、整備することによって、補修、塗装等を行うことによって延命、橋梁の寿命が長もちするというような場合に、財政的な支援、国等からの財政的な支援というのが受けられるのかどうか、その部分についてお伺いします。

○議長（八重櫻友夫君） 中森建設部長。

○建設部長（中森誠君） 橋梁の補修でございます。

これにつきましては、危険度の判定を行いまして、まず相当に危ないもの等から、そういったものから補修整備を行っているものでございます。今、取り急いで45の橋につきまして、急いで、計画的にはございませんけれども、修繕してまいりたいというふうに思っております。平成26年度現在で16の橋を補修しております。進捗率は36%というふうになっております。

これは、橋梁の長寿命化ということで、議員おっしゃいましたように、塗装、こういったものをやることによって、橋梁の寿命が延びるということを目的としておりますので、そういったものも含めて修繕を計画的に進めてまいりたいと思っております。

○議長（八重櫻友夫君） 1番梶谷武由君。

○1番（梶谷武由君） 私のうちの近くの田沢川歩道橋のところなんか危険な状態で、足場を組む工事用のパイプ、これで転落を防止するために、これを市で当然やったと思うんですが、そういう形で安全対策を行っているという、そういう応急措置をして急場をしのいでいるところもあるわけですが、それらについても、すぐ整備を行う予定というふうになっているのか、その部分についてはいかがでしょうか。

○議長（八重櫻友夫君） 中森建設部長。

○建設部長（中森誠君） 田沢川にかかる歩道の橋だと思います。先日、これについては、一部高欄の部分の補修いたしました。ただ、あれはかなりのさびがき

ておりますので、これにつきましては、概算の見積もり等はとっておりますけれども、今年度、また計画をちょっと見直しまして、早目にできるような形にしたいと思っておりますので、ご理解をお願いします。

○議長（八重櫻友夫君） 1番梶谷武由君。

○1番（梶谷武由君） だんだん時間がなくなって気にしていますが、遊具についてですが、先ほどの答弁で小学校1校からだけということで、大変びっくりしたわけです。遊具のない、ぜひ欲しいという声は、多くの学校の先生方から私は直接聞いているわけですが、どういう要望のとり方をしたのか非常に疑問に思うわけですけれども、全く学校からは、十分整備されていると、そういう教育委員会として認識をしているのかどうか、まずその部分について。

○議長（八重櫻友夫君） 澤里教育部長。

○教育部長（澤里充男君） 遊具についてでございます。

まず、先ほど教育長のほうからご答弁申し上げましたけれども、現在、要求、要望のあった内容は、小学校1校からということの要望でございます。

それで、要望のとり方ということでございますが、これにつきましては、予算要求をする段階で、各学校から要望について、機種についての取りまとめをしております。その段階でそういった1校からの要望であったということでございます。

以上でございます。

○議長（八重櫻友夫君） 1番梶谷武由君。

○1番（梶谷武由君） 予算要望の段階でというふうですが、では、その場合に、学校で必要なもの、こういうのが欲しいのだというのが出せる、そういうふうな状況でしょうか。

私が学校で勤務していた当時だと、予算要望する場合に、前年度の予算、配当された予算の何%までとか、そういう形での、学校で必要なもの、欲しいものを全て書き出せる、そういう状況ではなかったわけです。学校で必要なものがあつたとき、何を最優先していくかということで、遊具のところまでなかなか希望を出せないというのが実情だったんですが、私が退職してから8年以上経過していますので、学校で遊具の部分について、それが本当の希望の実態なのかどうか、そういう認識をしているか、その部分についてお伺いします。

○議長（八重櫻友夫君） 澤里教育部長。

○教育部長（澤里充男君） 要望を出せる環境かどうかということですが、要望につきましても、遊具にかかわらず、予算の要求にかかわっては、学校長のところである程度調整を図って提出いただいているものだとは思っております。

ただ、それを制限をしているというような考え方はございませんので、そのところをご理解いただきたいと思っております。

以上でございます。

○議長（八重櫻友夫君） 1番梶谷武由君。

○1番（梶谷武由君） 時間がないので、民俗資料室とか、それ以外にお伺いしたいんですが、マイナンバーについてですが、制度が始まって、市役所の端末どういうところでマイナンバーに触れる形になるのかわからないわけですが、情報が漏れるおそれがある、あるいは可能性がある、絶対そういうことはないという部分についての認識はどうでしょう。

○議長（八重櫻友夫君） 一田総合政策部長。

○総合政策部長（一田昭彦君） これは、当然おわかりのとおり、国の制度で、今いろいろ議論がなされてるところでございます。また、年金問題の流出問題等もございました。

そういう部分で、国においてしっかりと検証して、漏えいのないような形の制度をつくるべきだと思いますが、ただ、これは、我々も国のことだからというわけではございませんで、かといって、それに携わる我々のミスによって流出につながらないように、しっかりと庁内でも研修会なんかを通じまして、いろいろ勉強しながら、そして情報が漏れることのないよう、市民の生活がもっと向上するという目的がございますので、その目的が達成されるよう、我々も努力していきたいと考えております。

○議長（八重櫻友夫君） 1番梶谷武由君。

○1番（梶谷武由君） 市役所内でマイナンバーシステムにアクセスできる職員、どういう職員がといますが、どの部署の職員が携わることになるのか、まずその部分について。

あと、それから、このシステムそのものに連携するといいますが、例えば税のこと、社会保障のこと、あるいは保険関係、住民基本台帳システム、これらのところが結ぶような形でシステム同士が構築されていく

のか、その部分についてお伺いします。

○議長（八重櫻友夫君） 一田総合政策部長。

○総合政策部長（一田昭彦君） 想定されるのは、市でも個人情報を持つ部分、そしてマイナンバーに使う部分。そうしますと、税の部分、戸籍の部分、年金の部分であろうと思っておりますが、このような職員では、それぞれのコードを持った者でなければアクセスできないような形にしたりとか、そういうような形で、いろいろ制度を研究しながら考えていきたいと考えております。

○議長（八重櫻友夫君） 1番梶谷武由君。

○1番（梶谷武由君） あと、それから、支所からのアクセスというのは、これもできるような形になるのでしょうか。

あと、この番号は一生涯一つの番号だというふうに言われているわけですが、例えばカードを発行してもらっていて、そのカードを紛失した、あるいは盗難に遭ったという場合に、そうすれば、再発行という形になるものなのか、新しい番号が付与される形になるのか、その部分についてはいかがでしょうか。

○議長（八重櫻友夫君） 一田総合政策部長。

○総合政策部長（一田昭彦君） 支所などのアクセスについては、これからの研究課題になるかと思っております。

また、マイナンバー紛失した場合というのは、手続により再発行等もできますし、また、例えばマイナンバーが漏えいした場合は、本人の請求によりマイナンバーの変更というのも可能だという形で聞いております。

以上です。

○議長（八重櫻友夫君） 1番梶谷武由君。

○1番（梶谷武由君） 紛失あるいは盗難といった場合でも、新しい番号を付与しないと、どこからどういうふうに漏れるかというのも非常に市民にとっては不安になると思うんです。それらの部分については、機会を捉えながら、ぜひ新しい番号を付与されるように要望していただきたいと思いますが、そのような考えがどうなるのか。

あと、このマイナンバーはむやみに公開しないこともとされているわけですが、届け出なんかについても、例えば年金とか、健康保険、医療保険、生活保護、児童手当、福祉関係、確定申告、証券会社、保険会社、

金融機関、ハローワーク、給与の支払い者等、たくさんあります。これらの段階で、全てマイナンバーを、自分の番号を提示しなければならない。

そうなると、こんなになれば、情報の漏れないのがむしろおかしいくらいになるわけです。悪意のある人がアクセスしようとする。だから、そういうこと等を考えれば、早急に進めるべきではないと思うんですが、考え方、あるいは国への要望する考えがないか伺います。

○議長（八重櫻友夫君） 一田総合政策部長、簡潔にお願いいたします。

○総合政策部長（一田昭彦君） 先ほども申しましたが、まずは国でしっかり制度を構築すべきだと思います。そのマニュアルに従って、我々職員のほうは適性に対応したいと考えております。

以上です。

○議長（八重櫻友夫君） 再質問を打ち切ります。

この際、暫時休憩いたします。再開は午後3時といたします。

午後2時43分 休憩

午後3時00分 再開

○議長（八重櫻友夫君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

一般質問を継続します。

次に、創政会、下川原光昭君。

〔創政会下川原光君登壇〕

○2番（下川原光昭君） 議席番号2番、創政会の下川原光昭でございます。東日本大震災後の久慈市議会改選から早くも4年が過ぎました。この4年のうちにも、国内、国外において、多くの自然災害が起き、多くの方々が犠牲になっております。これまでに亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被害を受けられた皆様に心からお見舞いを申し上げます。

それでは、通告に従って質問いたします。

第1の質問は、第2期中心市街地活性化基本計画についてであります。

昨年度、第2期中心市街地活性化基本計画、国庫補助申請を見送りました。今年度、秋に迫っている国庫補助申請の進展状況について伺います。

第2の質問は、新井田地区雨水排水対策についてで

あります。

大雨のたびに新井田第5地割、新井田沼周辺が浸水する状況になっております。地元町内会としては、早期に雨水排水ポンプ場設置を望んでおります。この地域へのポンプ場設置見直しについて伺います。

第3の質問は、市道山岸線の整備についてであります。

この整備は、源道地区をはじめとして順次整備されてきております。この状況と今後の計画について伺います。

簡単であります。以上で登壇しての私の質問を終わります。

○議長（八重櫻友夫君） 遠藤市長。

〔市長遠藤譲一君登壇〕

○市長（遠藤譲一君） 創政会、下川原光昭議員のご質問にお答えをいたします。

最初に、第2期中心市街地活性化基本計画についてお答えをいたします。

当該基本計画の国庫補助申請につきましては、昨日の清風会代表、小柳議員ほかにお答えいたしましたとおり、現在、ワークショップで出された市民の皆様のご意見等を集約し、6月末に予定されております概算要望の提出に向けて調整をしているところであります。

また、12月ごろには本要望の提出を行いたいと考えております。

あわせて、建設費、維持管理費などの経費面、運営上のサービス面などを総合的に考察するなど、本年度末を目途にPFI事業の導入可能性を検討してまいります。

次に、新井田地区の雨水排水対策についてお答えをいたします。

さきの公明党、山口議員にお答えいたしましたとおり、当市の浸水対策といたしましては、雨水排水ポンプ場整備のほか雨水排水路を整備し、早期に浸水被害が解消できるよう努めているところであります。

今後におきましても、下水道雨水排水計画に基づき、浸水被害歴や財政状況を勘案しながら、整備に努めてまいります。

また、整備には、多額の経費と長い期間を要することから、新井田沼周辺につきましては、当面は、可搬式ポンプにより対応してまいりたいと考えております。

最後に、市道山岸線の整備についてお答えをいたし

ます。

まず、整備状況についてであります。当路線は市道と用水路が並行し、幅員が狭小であり、車両等の通行に支障を来していることから、現在、源道地区において、用水路をボックスカルバートに改良し、工事を進めているところであります。

また、今後の計画見直しについてであります。市道小山線の交差点まで、残り約120メートルであることから、引き続き早期に完成できるよう整備促進に努めてまいります。

以上で、創政会、下川原光昭議員に対する私からの答弁を終わります。

○議長（八重櫻友夫君） 再質問を許します。2番下川原光昭君。

○2番（下川原光昭君） それでは、順次再質問をしていきたいと思っております。

第2期中心市街地の件ですけれども、遠藤市長は、選挙のときから、昨年9月の一般質問にもありましたとおり、第2期計画は見直していくんだという公約の中で当選をされていると思っております。この中で地域の方々、商店街の方々、この見直しということに大変振り回されたような気がいたしております。

というのは、見直して聞いた瞬間に、ゼロに戻すんだという計画なくすんだという方々のイメージもあったように、私は思います。

ただしかし、それがここに至って、今年度申請に向けていくという決断をしたということに対しては、非常に私も喜んでいて一人であります。

その中で、やはりもっと商店街の皆さんが望んでいるのは、街なかの活性化だったと思っておりますし、昨今の岩手日報にも出ましたけれども、秋まつり実行委員会では、前夜祭を駅前広場にまた移すということで、そこでまた、街の中の活性化が図られるということに対しては、商店街またはお祭り関係者の方々も喜んでいてことですので、ぜひ市長の思いを、決断をもう少しわかりやすく伝えてもらいたいと思っておりますし、ぜひやってもらいたいのは、今まで中町の土風館、イベント広場、旧病院跡地でありますけれども、この二つでイベントをされるということは、ちょっと語弊があるかと思いますが、イベントがあった際は、駅前から十段通り、本町の商店街等の商店は、ほとんど人がいなくなるという状況があるから、ぜひ駅前再開発を含めて、

こっちの新町とか本町のほうに光を当ててほしいという商店街の皆さんの声もあるわけですので、そのことについてコメントをいただければと思います。

○議長（八重櫻友夫君） 遠藤市長。

○市長（遠藤謙一君） 中心街の活性化は、久慈市の顔でありますので、非常に重大な問題だと思っております。

私が選挙公約において見直しを訴えましたのは、やはりきちんとした情報提供がなされていないということが、議会の皆様からもそういう声もございましたので、やっぱりみんなでしっかりと意見交換して、議論した上でやるべきだと思っておりますので、見直しというお話はしましたが、市長職につかせていただいてからも、機会あるごとに、やめると決めたものではありません。

やはり駅前を中心に何とか状況を変えなければいけないというのは、同じ思いでありましたが、やはりどういうふうにしたら、本当の意味で人が集う、集まる、そういうエリアになるかということは、もっと思いのある方は集まっていただいて、しっかりと議論をすべきだろうというふうに思っております。

なかなか5年間という制約はありましたので、計画づくりにしっかりと時間をかけているという余裕がない中での作業ではあったんですけども、私としても、にぎわいを持たさなければいけないと思っております。

今回の整備に向けましては、関係者の皆様がいっぱいしゃいますので、そちら、建物の所有者、あるいは土地の所有者の皆さんのご理解もいただかないといけません、そういったものはあります。

あとは、事業費についても、無制限に投資できる状況でもありませんので、そこら辺を総合的に勘案しながら、今、絵を描いているところでございますし、今回の整備計画で全て終わりということではありません。まだ、今回は駅前を中心に整備計画を立てて、実施していきたいと思っておりますが、本町等につきましては、これからも引き続き地元の皆さんとも意見交換をしながら、民間の事業導入も含めて、これからもやってまいります。

まず、お祭りも前夜祭がこちらと、駅前というふうになりましたし、本当にお店やっつけいらっしやる方からは、非常に困ったという声がたくさん届いております。

すので、そういったものを何とかやっていきたいと思  
いますし、あわせて商店街の皆様も、やはりどうい  
うふうにしていったら、自分の商店街がにぎやかになる  
かということも、一緒に取り組んでいただくというお  
願いをしてみたいと思っております。

○議長（八重櫻友夫君） 2番下川原光昭君。

○2番（下川原光昭君） 先ほどもちょっとお祭りの  
話をしましたけども、いずれにしても、この駅前再開  
発は、やっぱりにぎわい、そして回遊性の商店街にす  
るということについても、ぜひ必要な開発だと私は思  
っておりますので、そのことについては、ぜひ皆さん  
の最大の声を聞いて、いい成果になる期待をしている  
ところであります。

次に、新井田地区の雨水排水ポンプ場ですけども、  
今、市長が答弁してくれましたけれども、被災歴、財  
政状況、緊急性等々、これから見ていくと考えながら  
いくということですけども、ご存じのとおり、久慈病  
院が完成してから、新井田地区には雨水排水の量がふ  
えた。

というのは、昔は、旭町・門前一体が水田だったと  
いうことで、多少の大雨では、こちらのほうに來な  
かったのが事実で、前は田屋地区が冠水の常習地だ  
ったわけですけども、おかげさまでポンプ場が設置  
をされてから、一度もない状況にあります。

その隣にあります新井田の方々、月曜日、珍しく久  
慈も大雨になって、これが1時間程度で終わったわけ  
ですけども、これが今、きのうでありますけども、岩  
手県紫波町では九十九点何ミリという豪雨がありま  
して、停電、そして道路の冠水等々あったわけであり  
ます。所を変えれば、九州のほうもそういう状況にあ  
る。

久慈はその状況ではないとは、私は自然災害です  
ので、これからあすということもあるわけで、いずれ  
にしても大雨のたびにということです。そのことにつ  
いては、この新井田地区だけではないのもわかってお  
りますし、前から可動式のポンプを設置してもらって  
おりますけども、いかんせん、可動式のポンプの排出  
量というのは、その大雨の雨量には到底かなわない  
状況でありますので、ぜひとも、市長が就任して新  
井田の町内会さんが、市長のところを要望を届けて  
おりますので、早期のポンプ場設置というのは、や  
はり望んでいることと市長も認識していると思いま  
すので、ぜひ第一に危険性、緊急性、被害歴を勘案  
して、次のポン

プ場設置というような思いでいてもらいたいと思  
いますが、その考え方についてお願いをいたします。

○議長（八重櫻友夫君） 遠藤市長。

○市長（遠藤謙一君） 久慈市は、海拔が全般的に  
低い町でありますので、この洪水対策、浸水被害で困  
っている方が、昔からたくさんいらっしゃるの承知し  
ております。

現在は、優先順位からいって、川貫のポンプ場を  
今、整備中なわけでありまして、ほかの地区からも、  
ぜひ我がほうを早く早くというお話はいただいて  
おります。

異常気象が頻発する時代になっておりますので、皆  
様の希望するのは本当十分わかるんですが、いかん  
せん、財源の問題がありまして、本当、財源さえあ  
れば、一斉にやりたいくらいの思いはあるんですけ  
ども、そうならない状況もございますので、やはりこ  
こは被害状況、あるいは住宅の戸数とかそこら辺の  
ところを優先順位をつけさせていただかざるを得な  
いということがございます。

この財源確保については、もっとしっかり国に対  
しても働きかけをして、何とか安心して暮らせるよ  
うに、早期整備を図っていきたいというふうに思っ  
ております。

○議長（八重櫻友夫君） 2番下川原光昭君。

○2番（下川原光昭君） 今、私、何回も同じこと  
を繰り返すようになりますけども、ぜひ市長の頭の中  
に、この新井田地区の雨水排水ポンプ設置を1番に  
ということで頭の中に入れて、実行するようお願い  
したいと思います。

次に、市道山岸線の整備でありますけども、今、  
先ほど市長からもお話があったとおり、農業用排水  
路と並行して半分以上、残すところ120メートル  
までボックスカルバートで整備をいただいております。

というのは、これ以降、旭町のほうにも、この  
用水路は並行してありますので、引き続き整備して  
ほしいというのは、そのとおりなんですけども、夏  
井町の大崎の方々が、避難道とあわせまして、金  
刀比羅神社の下の避難道が、28年3月、来年3  
月に完成予定となっております。

そうすることによって、先ほどお話した大崎の  
方々が、県道395を通らないで、久慈病院等々  
に來る道として近道になるということで、交通量  
が増すんだ

ろうなど私は思っております。

そういうことに伴って、中学生の方々が、源道・旭町・門前の山岸線に沿った農業用水路と重なると。そうすることによって、自転車、子供たちの安全を確保するためには、この農業用水路、山岸線整備を私は早期にすべきだと思うんですが、計画どおりやるというのは、多分、当局の答えだとは思いますが、その中には、前倒しでやっていくんだという考え方もあるわけですので、そのことについてお聞かせをお願いしたいと思います。

○議長（八重櫻友夫君） 中森建設部長。

○建設部長（中森誠君） 山岸線、ボックスカルバートにして広げて、今現在、整備しております。

先ほど議員おっしゃいましたとおり、まだ開通しておりません。土取場線湊の源道のところの道路ですけども、避難道路、これが開通しますと、夏井のほうからもまた県立病院に向かう方、それから通勤、通学にという方もふえるというふうに私どもも思っております。

それで、できるだけ早く進めたいと思っております。昨年からことしにかけて、元気交付金、こちらのほうも投入いたしまして、一部ですけども、見通しが悪い所等を直しました。

こういったこともございますので、いろいろな有利な交付金等もございましたら、そういったものも含めながら、いずれにしても、整備に努めてまいりたいと思っておりますので、ご了承をお願いします。

○議長（八重櫻友夫君） 2番下川原光昭君。

○2番（下川原光昭君） これはちょっと質問項目からずれるのかなと思っておりますが、お許しをいただきたいなと思っております。

山岸線の関連でいきますけど、今、この土取場線が、この整備になるということですが、湊の自主防の方々が、この前の月曜日に車椅子の方を砂利道で避難させてどういう状況、どういう時間かかるのかなという実体験をしておりますので、この山岸線整備とあわせて、ちょっと土取場線の早期の整備を要望しながら、私の質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（八重櫻友夫君） 再質問を打ち切ります。

次に、創政会、藤島文男君。

〔創政会藤島文男君登壇〕

○3番（藤島文男君） それでは、大成橋南側丁字路

の交差点安全について、あるいは、広美町の海岸線早期の整備について、主に二つについてやります。

最初は、まず国道281号線大成橋南側丁字路交差点への信号機の設置、進展が見られないが、その後の進捗状況はどうなっているか。

2点目は、国道281号線長内町付近車両等の通行、もしくはそれとともに広域のこの体制について、以前から問題になっておりました道路の環境整備についてお尋ねします。

若干、もろもろ損じたような部分がありますが、その点をご理解をお願いしたい。引き続きの内容につきましては、一旦、席に戻って、それからお伺いしたいと、そのように思います。

○議長（八重櫻友夫君） 遠藤市長。

〔市長遠藤譲一君登壇〕

○市長（遠藤譲一君） 創政会、藤島文男議員のご質問にお答えをいたします。

最初に、大成橋南側丁字路の交通安全対策についてお答えをいたします。

当該地点への信号機の設置につきましては、岩手県公安委員会の所管となっておりますことから、これまでに交通安全施設点検を通じて、久慈警察署に対し継続的に要望してきているところであります。

また、平成26年度から新たに、岩手県に対して重点事項要望を行っているほか、本年4月3日には、私自身、久慈警察署長に直接、要望をしたところでもあります。

今後におきましても、当該箇所の信号機設置の実現に向けて、鋭意取り組んでまいります。

最後に、広美町海岸線の進捗状況についてお答えをいたします。

現在、市道下長内旭町線との交差部から、長内町第25地割地内までの区間約150メートルと雨水排水路の工事を実施中であります。

また、未契約の地権者の方に対して、用地買収及び物件補償に係る交渉を進めているところでございます。

今後におきましても、引き続き用地確保に努め、当該路線の早期完成に向け、鋭意努めてまいります。

以上で、創政会、藤島文男議員に対する私からの答弁を終わります。

○議長（八重櫻友夫君） 再質問を許します。3番藤島文男君。



○3番（藤島文男君） それでは、第2問目の件についてお尋ねします。

一番問題は、一体、なぜそれができないのか、簡単なことです。そして、みんなが一番気にしている、早くやってほしいなというものが、なぜできないのか、この点をよく精査の上、ご答弁をお願いしたい。

○議長（八重櫻友夫君） 中森建設部長。

○建設部長（中森誠君） 2番目の広美町海岸線のことだと思いますけれども、今現在、工事、先ほど市長が申し上げましたとおり、2カ所で工事を行っております。ですが、今はまだ、3件につきまして、用地買収ができない状態になっております。

ただ、この2件につきましては、大体今のところ、目途が立ってきたところでございます。あと一件につきましては、今後ともご理解いただけるように努力してまいりたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

○議長（八重櫻友夫君） 3番藤島文男君。

○3番（藤島文男君） じゃあ、その3件のところが、はっきり言って、ちょっと難問じゃないかなという方向だと思うんですけども、それはちょっと時間がかかり過ぎるんじゃないか。もうちょっとスピーディにやる方法はないのか。

これは、いわゆる本当に市長も、あるいは助役も、それぞれいつも頭の痛い問題だと思いますけども、それでも、そこを乗り越えていくことこそ、本当の21世紀の新しい久慈の発展があるんじゃないかな。

要するに、人の持っている物の価値判断というものは、ただ単にあれば市長が変わったからやってくれるんじゃないか、あるいは、助役が変わったからやってくれるんじゃないか、やるんでないかというようなことでは、なんぼ経っても、なかなか目に見える進展というのがあらわれない。

これは、やはり本当にもうただ見れば、正面切って言うのであれば、手を振って応えるぐらいのところにある距離にいながら、残念ながら、それに対する答弁はなかなか出てこないんじゃないかな。

それは、単に、別に市長のことを言っているのではないし、助役のことを言っているのでもない。本当に、そういう市民に立ったものの、まず目に見えない、また目に見える、そここのところの部分の一番の結論じゃないのかなと。

そこをなんとか市長さんと助役さんをお願いしたい。ここはひとつご答弁をお願いしたい。

○議長（八重櫻友夫君） 中居副市長。

○副市長（中居正剛君） 市民が望んでいる道路を1日も早くつくるべきだというお話でございます。私ももそのとおりだというように思っております。

今現在、ロイヤルパークのところの道路については発注済みでございます。今、50メートルほど工事進捗中でございます。

先ほど、部長のほうから、未買収箇所が3カ所、うち2カ所については、おおよその目途が立っていると。もう一カ所については、今鋭意、交渉中でございます。それについても、議員さんからは、市長なり副市長なりが率先して折衝に当たるべきだというお話をいただきました。

それらについても、今後、機会を捉えて、交渉等に当たって、1日も早く実現できるように努力してまいりたいと思っております。

以上でございます。

○議長（八重櫻友夫君） 3番藤島文男君。

○3番（藤島文男君） 実際、大変だと思うんですよ。本当にゆるくない。けども、やっぱりそこをわかり切っているからこそ、お互いの精いっぱいのところを努力して、そして成功した暁には、やっぱり久慈市民で良かった、苦勞したのに良かったというような。極端に言うならば、涙の2滴3滴出るぐらいの私は内容である、よく理解しております。どうぞこれからも頑張って、この目に見えない、みんなの目には見えてるんだけど、実際問題はゆるくないとわかりつつも、そこを何とか頑張っていただきたい。

以上です。

○議長（八重櫻友夫君） 遠藤市長。

○市長（遠藤譲一君） 藤島議員からは、力強いエールを送っていただきました。市民の皆さんのために、困難な問題については、しっかりと私も取り組んでまいります。これからもご指導方よろしく願いいたします。

○議長（八重櫻友夫君） 再質問を打ち切ります。

次に、創政会、桑田鉄男君。

〔創政会桑田鉄男君登壇〕

○10番（桑田鉄男君） 創政会の桑田鉄男でございます。議会改革の一環として、一般質問は、会派代表質

問と個人質問の選択制となっております。

私たち創政会では、今任期最後の一般質問でもありますことから、4人全員が登壇する個人質問を選択させていただきましたので、よろしく願いをいたします。

昨日、そして本日と重複する質問がありますが、割愛することなく、通告に従い、順次質問させていただきます。

第1の質問は、地方創生についてであります。

政府から、全ての都道府県と市区町村に、来年3月までに作成を要請されている地方版総合戦略策定に向けた当市の取り組み状況についてお尋ねいたします。

第2の質問は、誘致企業の雇用動向についてであります。

市内誘致企業の雇用者数、また、雇用者の定着状況について、どのように捉えているのかお示しを願います。

第3の質問は、漁業集落環境整備事業についてであります。

漁港背後地の集落環境を整えることを目的とした、漁業集落環境整備事業をほぼ同時期に、大尻地区、白前・本波地区に、この事業が入っております。各地区における事業の進捗状況と完成までの各年度の計画についてお示しを願います。

第4の質問は、各種選挙の投票率向上について、選挙管理委員会委員長に質問いたします。

全国的に投票率の低下が問題となっています。特に、政治に無関心と言われる若年層、そしてどんどんふえる高齢者を中心とした市の投票率向上策の検討状況についてお尋ねいたします。

以上で、登壇しましての私の質問を終わります。

○議長（八重櫻友夫君） 遠藤市長。

〔市長遠藤讓一君登壇〕

○市長（遠藤讓一君） 創政会、桑田鉄男議員のご質問にお答えをいたします。

最初に、地方版総合戦略の策定状況についてお答えをいたします。

昨日の清風会代表、小柳議員ほかにお答えいたしましたとおり、地方版総合戦略の策定につきましては、久慈市総合計画との一体的な策定を進めているところであります。

策定に当たりましては、市民会議の開催や職員プロ

ジェクトチームの設置など、新たな手法を取り入れ、本年10月末の策定を目標に取り組んでいるところであります。

次に、誘致企業の雇用動向についてお答えをいたします。

まず、誘致企業の雇用者数であります。本年4月1日現在で、16社、1,500人が雇用されているところであります。

また、誘致企業雇用者の定着状況につきましては、数値は把握していないところでありますので、ご了承承願います。

なお、岩手労働局の資料によりますと、平成23年3月に高校を卒業し就職した生徒が、平成26年3月までの3年間に離職した割合は、全国平均で39.6%、岩手県におきましては42.3%という状況となっております。

市といたしましては、若者の地元定着を図るため、本年度から新卒者雇用奨励金制度を改正し、市内企業に3年間就業した新卒者に対して、奨励金10万円をご本人に交付する制度としたほか、中学生の職場体験を含めたキャリア教育の充実にも取り組んでいるところであります。

若者の地元定着及び管内就職率の向上には、個々の企業の雇用条件の向上など、魅力を高めることも肝要と考えておりますことから、機会を捉えて、企業経営者の皆様に魅力向上に向けた取り組みを要請しているところであります。

最後に、漁業集落環境整備事業についてお答えをいたします。

本事業は、平成24年度から、白前漁港の背後集落にある白前地区と本波地区を一つとするエリアと、大尻地区の2カ所に事業導入を行っているところであります。

各地区の状況であります。平成26年度に集落排水の一部整備を行い、現在、集落道等に係る用地交渉を進めているところであり、その状況を踏まえながら事業の推進を図ってまいります。

また、白前・本波地区と大尻地区の事業完了時期を当初、それぞれ平成29年度、平成28年度と見込んでおりましたが、昨年度から漁港整備や集落環境整備事業に対する国の予算配分が減少傾向にあることから、各地区とも事業完了年度がおくれるのではないかと考えております。

以上で、創政会、桑田鉄男議員に対する私からの答弁を終わります。

○議長（八重櫻友夫君） 大沢選挙管理委員会委員長。  
〔選挙管理委員会委員長大沢寿一君登壇〕

○選挙管理委員会委員長（大沢寿一君） 創政会、桑田鉄男議員の各種選挙の投票率向上についてのご質問にお答えいたします。

若者や高齢者を中心とした投票率向上策の検討状況についてであります。全国的にも、久慈市におきましても、投票率が低下傾向にあることから、投票率向上に向けた取り組みを実施してまいりました。

先ほどの社会民主党、梶谷議員の質問にもお答えいたしましたとおりの、選挙時啓発といたしまして、防災行政無線及び公用車による広報や、期日前投票及び不在者投票制度の周知など、さまざまな手段を使い、投票を呼びかけてきたところであります。

また、常時啓発といたしまして、市内各小中学校への選挙啓発ポスターの募集や、久慈秋まつりにおける街頭啓発、久慈地方産業まつりにおける模擬投票及び啓発物品の配付などを行っており、今後におきましても、投票率向上のため、効果的な選挙啓発活動を実施するとともに、投票率向上に努めてまいりたいと考えております。

以上で、創政会、桑田鉄男議員に対する私からの答弁を終わります。

あと一言、言わせてください。

きょう、3度目の登板になります。せっかくのついででございますので、来月、市会議員が1カ月後に迫っておりますが、選挙管理委員会においては優秀なスタッフをそろえ、万全の準備を整えておりますので、どうぞご安心ください。

○議長（八重櫻友夫君） 再質問を許します。10番桑田鉄男君。

○10番（桑田鉄男君） 何点か再質問させていただきます。

1番の地方創生、地方版総合戦略の策定についてでございます。

今年度中につくればよいということなんですが、先ほどの答弁ですと、10月末を目標にしているということのようです。いずれ、国のほうでは、今年度の10月末までに策定したところには、新たな交付金、何か1,000万程度とか聞くわけですが、それが上乗せ支給

されると。そういうことを目指した、この10月末なのかについてお尋ねをします。

○議長（八重櫻友夫君） 一田総合政策部長。

○総合政策部長（一田昭彦君） もちろん、10月末で、国からの上乗せ交付金は出ることは出ますが、やっぱり久慈市としましても、できるだけ早く計画を立てて取り組みたいという意味でもございます。

以上です。

○議長（八重櫻友夫君） 10番桑田鉄男君。

○10番（桑田鉄男君） 先ほどの答弁ですと、総合計画と一体となった戦略といいますが、それをつくっていくんだということのようですが、いずれ、ことし、つくって出すわけですが、国のほうでは、出してもらったものを、28年度以降の取り組みについて、新型交付金ということで、自由度の高い交付金も交付をするということのようなんですが、いずれ、客観的に指標を設定しまして、PDCA、いわゆるその戦略を実施するに当たってのチェックまで入った客観的な指標の効果検証、これが大事だと言っているんですが、その辺を考えると、この10月末で大丈夫なのかというふうな感じもしないわけでもないんですが、その辺についてはどのように考えておられるか。

○議長（八重櫻友夫君） 一田総合政策部長。

○総合政策部長（一田昭彦君） もちろん、総合戦略、国のほうではPDCAということで、今、議員お話のとおり、チェックの部分という話もあります。これにつきましては、今、総合計画策定と一体となって、総合戦略の策定に取りかかっているわけですが、これまでの事業のチェック、そういう部分も含めていろいろ洗い出しをしながら、検討をしているところでございます。

○議長（八重櫻友夫君） 10番桑田鉄男君。

○10番（桑田鉄男君） ことしのこれは寒い時期だったんですが、石破地方創生担当大臣のお話を聞く機会があったんですが、その中で出てきた話ですが、いわゆる観光、これがこれから非常に各地域にとって大事だというお話がございました。戦略をつくっていく上で大事だという話でした。

各地区とも自信と誇りを持って、喜びと感動を観光客に与えてほしいということで、「今だけ、ここだけ、あなただけ」と、そういうキャッチフレーズをつくっていったらというお話もございました。そういうこと

について何か考えがございましたら、お尋ねをしたい  
と思います。

○議長（八重櫻友夫君） 一田総合政策部長。

○総合政策部長（一田昭彦君） まち・ひと・しごと  
という関係もございまして、当然ながら、交流人口を  
呼び込むことが、人をつくり、仕事をつくることにも、  
当然、かかわり合ってくると考えております。

キャッチフレーズにつきましては、総合戦略策定の中  
で、そのキャッチフレーズで久慈市の目指す方向が  
こうなんだとわかるような、具体的なキャッチフレーズ  
をつくらうと考えておりますので、それと一体的に、  
総合戦略のほうでも考えていく形になると思います。

○議長（八重櫻友夫君） 10番桑田鉄男君。

○10番（桑田鉄男君） 次に、2番の誘致企業の関係  
についてお尋ねをしたいと思います。

4月1日現在で、16社で1,500人いるんだというこ  
とで、働き続けるような定着率については、ちょっと  
数はということなのですが、いずれ、男子型の誘致企  
業ということで、個別の名前を挙げて言いますと北日  
本造船でございます。ここが、比較的定着率が低い  
のではないかとこの話を聞かされております。いわゆる  
従業員の入れ替えが結構ある、そういうふうな話を聞  
くわけですが、そのことについて聞いておられるので  
あれば、お尋ねをしたいと思います。

○議長（八重櫻友夫君） 浅水産業経済部長。

○産業経済部長（浅水泰彦君） 今、企業誘致に関わ  
りまして、北日本造船の雇用者については、定着率と  
いうことで、低いというふうな情報もあるということ  
で、状況を把握しているかということなのですが、詳  
しい数字については持ち合わせておりませんが、  
北日本造船、関連事業所も含めまして、求人等を行っ  
ている中で、なかなか応募者がいないというふうな中  
で、せっかく採用といいますか、就職しながら、やめて  
いく方もあるというふうには伺っているところでござ  
います。

○議長（八重櫻友夫君） 10番桑田鉄男君。

○10番（桑田鉄男君） 非常に残念なことだなとい  
うふうに思っています。

午前中も出ていたんですが、久慈は仕事がないわけ  
ではない。人を欲しがっているところもあるんだけど  
も応募がない、あっても原因が何か、そこらについて  
は、私どももちょっとわからないわけですが、人がい

なくなる、そういう状況もあるようでございます。

いずれ、労働条件なのか、いろいろ要素というのは  
あると思うんですが、その辺については、何か承知を  
しておらないんでしょうか。

○議長（八重櫻友夫君） 浅水産業経済部長。

○産業経済部長（浅水泰彦君） 北日本造船に関わり  
ましての労働条件等の把握ということでございますが、  
求人広告を出している状況等の中で、確認できる部分  
は確認しておるわけですが、待遇面ということで賃金  
水準、これらにつきましては、一定水準にあるものだ  
というふうに考えております。

それから、勤務の内容ということにつきましても、  
お聞きしているとかそういう中で、特別厳しい状況に  
はないのかなというふうには思っておりますが、今の  
若い人たちの望む仕事、いわゆるマッチングという部  
分で、なかなか合わない部分があるのかなというふう  
に思っております。

市長からもご答弁申し上げましたとおり、勤務労働  
条件を含めた中で、企業の魅力向上を図っていくとい  
うふうなことで、何とか定着できるような形であって  
いただきたいと思っておりますし、これから、改めて  
会社のほうとも意見交換を進めていきたいというふう  
に思っております。

以上でございます。

○議長（八重櫻友夫君） 10番桑田鉄男君。

○10番（桑田鉄男君） 今、部長のほうからもありま  
した。会社ともいろいろ連携をしながら、定着率が上  
がるようにしていきたいということのようですので、  
ぜひとも、せっかくの本当に地域にとっては大事な企  
業でございますので、その点についてもよろしくお願  
いをしたいと思います。

次に、漁業集落環境整備事業でございます。

白前・本波、大尻地区とも、目標年次よりはおくれ  
るのではという先ほど答弁がございました。いずれ、  
24年度あたりも、25年度に対して繰り越し等もあるよ  
うなので、遅れるのではないかなと、そういうふうには  
見ていました。

そこで、いずれ、前の桑畑地区だったと思うんです  
が、いわゆる集落が点在をしている、連たんをしてい  
ないようなところについては、事業費も効率が悪いとい  
うことで、管渠、無駄な部分があるということで、  
浄化槽で処理をするというのがあったわけございま

すが、その辺、この3地区についてはどの程度あるのでしょうか。

○議長（八重櫻友夫君） 浅水産業経済部長。

○産業経済部長（浅水泰彦君） ただいま、集落環境整備にかかわりましての管渠が非効率になる部分について、浄化槽設置で対応する部分がどのくらいあるかというお尋ねでございますが、ちょっとこの部分については、数字を取り寄せてお答えしたいと思います。

ということで、市長からご答弁申し上げましたとおり、事業期間が延申しそうだという部分につきましては、議員からもお話がありましたように、なかなか予算化した部分を年度内に消化できないという状況となっております、数年程度の延伸が見込まれるという状況でございます。資料を取り寄せてご答弁申し上げます。

○議長（八重櫻友夫君） 10番桑田鉄男君。

○10番（桑田鉄男君） それでは、そちらのほうは、後回しにしまして、選挙管理委員会にお尋ねをしたいと思います。

いろいろ努力はされているようでございます。先ほど聞いた範囲でそうなんです、昨年、行われました市長選挙で70.34%、それから12月の衆議院選挙におきましては、57.40%ということで、特に国政選挙では半分近い人が投票に行っていないと、そういう状況もあるようでございます。

今、私どもの選挙もございますので、いろいろ有権者の方からいろんな話をされています。その中であるのは、いわゆる投票所に投票に行ったけども、高齢でなかなか階段を上がるのが難しいとか、障害があって、その投票所に入るのが難しいと。そういう状況で、大分待たされるとかそういうのがあって、行きたくないんだという人も、結構言われています。

あと、そういった中でも、期日前投票については、結構、市長選で17.9%、衆議院選挙、投票率低かったんですが、そこで16.58%の人が期日前投票をしているようです。

いずれ、この期日前投票については、やりやすいということもあったり、結構、当日、投票に行けないとかだけでなく、投票日当日の投票所に行きにくいので来ているという人も、結構あると思うんですが、2003年にこの制度が導入されて、各市区町村1カ所は設ける、設置をしろということのようなんです、2カ所

目以降については、特に数とか時間については、制約・制限がないようでございます。

こういうことからすれば、例えば、街なか、土風館にも期日前の投票所を設けるとか、いろいろ考えればいいのかなと思うんですが、その辺について、検討した経緯、経過があるのかお尋ねをします。

○議長（八重櫻友夫君） 夏井選挙管理委員会事務局長。

○選管事務局長（夏井正悟君） ただいま、投票のあり方、投票率の向上についてのご質問をいただきました。

桑田議員ご指摘のとおり、投票率につきましては、衆議院選挙でも57%台という率であったわけでございます。

また、若年層が非常に低いという傾向もございまして、また高齢者等、それから障害のある方等については、投票所が全て施設が整ったところでやっているわけではございませんので、若干、そういったご指摘をいただいているというふうなことも承知してございまして。

投票所におきましては、可能な限り、事務従事者のほうで対応をさせていただきたいと思っておりますけれども、そういった部分の申し出等についても、気楽に申し出いただけるような環境を、これから啓発等を通じましてつくっていきたく思っております。

また、ご提言いただきました期日前投票所について、内部では今検討はしてございます。今、市役所の議会棟下でやってございますけれども、そのほかにつくることができないかというふうなことも検討はしてございますが、なかなか通信の部分であったり、システムの部分があったり、制約があるようでございますけれども、いずれ、何か実現できないものかというふうなことで、検討はさせていただいております。

また、若年層が来やすいような環境もつくりたいというふうなことで、スマホ等でアクセスできるフェイスブック等を使った啓発ができないものかというふうなことで、若手職員のほうで、今検討も始めておりますので、そういった取り組みを通じながら、何とか投票率の向上に向けた、上がっていただければなと思っております。そういった取り組みをさせていただいております。

以上でございます。

○議長（八重櫻友夫君） 10番桑田鉄男君。

○10番（桑田鉄男君） いずれ、期日前投票の投票所、投票できる場所、ここについては、ぜひとも何か所でいいのでふやしていただきたい。そうすれば、私は、今の時点では投票率、やっぱり上がるのかなと、そういうふうに思っていますので、7月の私どもの選挙には間に合わないかもしれませんが、ことしは、秋の県議選、知事選、参議院の補欠選挙も予定されていますので、その辺に向けてご努力をいただければいいのかなと、そういうふうに思っていますので、よろしくお願ひします。これは答弁は要りません。

○議長（八重櫻友夫君） 保留となっております答弁をさせます。浅水産業経済部長。

○産業経済部長（浅水泰彦君） 先ほど、桑田議員の質問に対して保留しておりました、管渠整備が非効率なところについての浄化槽での対応の戸数の見込みということでございましたが、現在、汚水処理計画の見直しを実施するために、そういったことで見直し作業中ということでございまして、その具体的な基数については、まだ確定していないところでございますので、ご了承いただきたいと思ひます。

以上でございます。

○議長（八重櫻友夫君） 10番桑田鉄男君。

○10番（桑田鉄男君） わかりました。

今の部長の答弁で、まだわからないということのようですが、いずれ、桑畑地区の場合は、浄化槽の設置について、若干の助成をしていただきました。それで、この白前・本波、大尻地区についても、同じような扱いをしていただきたいということの願ひをするための今の質問でございましたので、ぜひとも桑畑地区に入ったときのような取り扱い、取り組みをしていただくようお願いを申し上げまして、私の質問を終わります。

○議長（八重櫻友夫君） 浅水産業経済部長。

○産業経済部長（浅水泰彦君） この白前・本波地区、それから大尻地区につきましても、桑畑地区で実施したような対応をしまりたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（八重櫻友夫君） 再質問を打ち切ります。

次に、創政会、下館祥二君。

〔創政会下館祥二君登壇〕

○18番（下館祥二君） 創政会の下館祥二であります。質問をする機会を与えていただきまして、大変感謝しております。

通告どおり順次質問をさせていただきますが、重複する箇所はあると思ひますが、前の質問者と、順次そのまま割愛することなく質問をさせていただきますと思ひます。

1番の林業振興についてであります、「山の日」が国民の休日になるということで、平成26年5月に祝日法が改正され、8月11日が「山の日」として、国民の祝日と定められました。施行は平成28年からということのようでございます。祝日法では、山に親しみ、山の恩恵に感謝するとなっているようでございます。

森林の多面的機能には、水源の涵養、国土の保全、保健レクリエーションのさまざまなものがあります。もちろん、経済林として計画的に伐採し、植林し、または自然更新し、保育、森林資源の循環利用をするという形でございますが、森林林業白書では、木材産業を成長産業と位置づけ、また、森林整備の推進には、緑の国土強靱化政策を打ち出しております。そこに、地元産材の積極的な活用が強くうたわれているわけがあります。

そこで、①として、地域産材の活用状況と今後の利用拡大に向けた取り組みについてお伺ひいたします。

②といたしまして、松くい虫対策の取り組みについてであります。

ご承知のとおり、久慈地方のこの松は侍浜松といつて、県下でももちろん有名でありますし、日本中でも侍浜松というのは聞こえた産地になっておるわけがあります。

ご承知のとおり、岩手県では、今、一関市の東山町の東山松、これは松くい虫で被害をすっかり受けてしまつておりますし、もう一カ所の産地であります、岩手町の御堂松、これは隣の一方井までは、松くい虫、松の材線虫は来ているけども、御堂まではまだ来ないと、戦々恐々としている状態であると。

ご当地でも、振興局を中心に巡視をしながら、枯れた松の部分的なところをとって採取して、そして検査等をしていただいておりますが、久慈市では、それに対する対応をどうなっているか。松くい虫の状況、対応の状況についてお伺ひしたいと思ひます。

2番目として、地方創生についてであります、①

として、地方創生に取り組んでいく上での当市の基本的な考え方について問う。また、産官学金労言の連携を図り、地元産業の活性化や雇用創出にもつながる若者・ファミリー・シニア向けの体験型旅行企画を充実・推進すべきと思うが、お考えを伺いたいと思います。

②といたしまして、弘前市では、大手旅行会社との職員派遣交流を行い、旅行企画に成功しているが、当市として取り組む考えがないかお伺いいたします。

以上、登壇しての質問を終わります。よろしく願います。

○議長（八重櫻友夫君） 遠藤市長。

〔市長遠藤謙一君登壇〕

○市長（遠藤謙一君） 創政会、下館祥二議員のご質問にお答えをいたします。

最初に、林業振興についてお答えをいたします。

まず、地域産材の活用状況と今後の利用拡大に向けた取り組みについてであります。当市では、平成24年度に策定いたしました、久慈市公共建築物等木材利用推進方針に基づき、公共建築物等における地域産材の利用拡大を図りながら、林家所得の向上に努めているところであります。

また、木材の地産地消による地域経済循環システムを構築するため、薪ストーブ等利用拡大支援事業により、薪ストーブ及びペレットストーブの利用拡大を図るとともに、木質バイオマス活用推進事業による熱供給施設整備に対する支援等の取り組みを行っているところであります。

今後におきましても、関係機関・団体等と連携を図り、地域木材の利用拡大による地域林業の振興と林家所得の向上に取り組んでまいります。

次に、松くい虫対策の取り組み状況についてであります。アカマツを主要樹種とする当市におきまして、松くい虫被害の発生・拡大は、地域林業へ多大な影響を及ぼすものであると認識をいたしております。

松くい虫の被害防止策といたしましては、関係機関や地域住民と連携した監視体制による、早期発見・早期防除が肝要でありますことから、市におきましては、久慈市市有林野看守人に対して監視の強化を要請するとともに、市内の森林整備事業体及び素材生産業者に対して、情報提供の呼びかけを行っているところであります。

また、県北広域振興局によりますと、久慈広域管内に松くい虫等防除推進員1名を配置し、媒介昆虫であるマツノマダラカミキリの生息調査や巡回による監視に努めているとのことであり、今後とも、市の主要樹種であるアカマツの保全を図るため、関係機関・団体等と連携を図りながら、監視体制の強化に取り組んでまいります。

次に、地方創生についてお答えをいたします。

昨日の清風会代表、小柳議員ほかにお答えいたしましたとおり、地方創生の取り組みについては、人口ビジョン及び総合戦略の策定とあわせまして、総合計画との一体的な策定を進めており、幅広い分野の方々との協力と参画をいただき、安定した雇用創出、久慈市への人の流れづくり、結婚・出産・子育ての支援、安全・安心なふるさとづくりの4つの基本目標を盛り込んだ内容となるよう進めてまいります。

また、若者・ファミリー・シニア向けの体験型旅行企画の充実・推進についてであります。環境省の復興エコツーリズム推進モデル事業を活用し、体験型の一般旅行客受け入れ拡大に取り組んでおり、現在、基本戦略と行動計画を策定しているところであります。今後とも関係機関等と連携を図り、積極的に取り組んでまいります。

最後に、旅行会社への職員派遣についてであります。弘前市では、平成26年度から株式会社JTBに職員を1名派遣し、主に北東北を中心とした旅行企画等の業務を行っている、弘前市から伺っております。

現在、当市は、東日本大震災からの復興事業への対応や人口減少、少子高齢化の一層の進行など多くの課題を抱え、限られた職員をもって、多様な市民ニーズに対応していかなければならない状況にはありますが、旅行会社での業務を通じて、企業の経営感覚を身につけるとともに、旅行企画力、情報発信力などの能力を向上させ、市の施策に寄与することが期待されますことから、今後、民間企業との職員派遣交流についても検討してまいります。

以上で、創政会、下館祥二議員に対する私からの答弁を終わります。

○議長（八重櫻友夫君） 再質問を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（八重櫻友夫君） 再質問を打ち切ります。

~~~~~

## 散会

○議長（八重櫻友夫君） 以上で、本日の日程は終了いたします。

6月24日の本会議は、議事の都合により午後1時30分に開会いたします。

本日はこれで散会いたします。

午後4時15分 散会